

明治大学博物館

年報

2017年度



明治大学博物館

2017年度の 展示活動



特別展「鳥取の工芸文化 一手仕事の近世、近代、そして現代」(1)



特別展「鳥取の工芸文化 一手仕事の近世、近代、そして現代」(2)



特別展「鳥取の工芸文化 一手仕事の近世、近代、そして現代」(3)



特別展「鳥取の工芸文化 一手仕事の近世、近代、そして現代」(4)



特別展「鳥取の工芸文化 一手仕事の近世、近代、そして現代」(5)



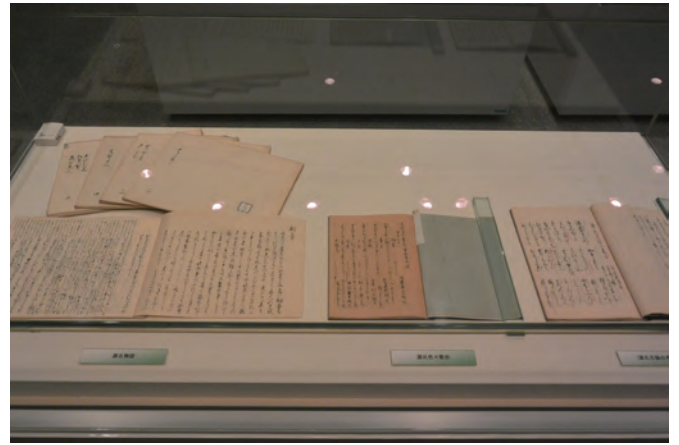
特別展「鳥取の工芸文化 一手仕事の近世、近代、そして現代」(6)



特別展「鳥取の工芸文化 一手仕事の近世、近代、そして現代」(7)



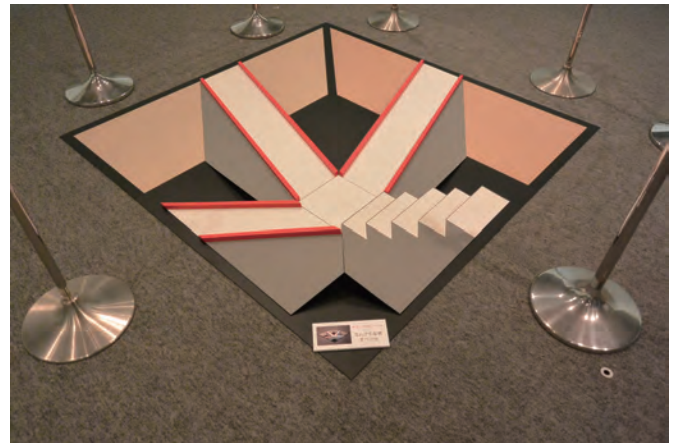
新収蔵資料展 20世紀前期の陶磁資料群
鍋島焼の近代／柿右衛門様式の復興／その他



新収蔵・収蔵資料展 2017



明治大学図書館所蔵 エジプト学貴重書展



進化する不可能立体錯視
～真実がわかってでも逃れられない不条理の世界～



十手と錦絵―描かれた捕者の世界



中国「革命宣伝画」展



力の誇示・馬形埴輪の世界



茨城県大日塚古墳の埴輪―最新の発掘調査成果から―

明治大学博物館

年 報

2017年度



明治大学博物館

目次

口 絵	1
I 展示活動	5
1 特別展「鳥取の工芸文化 一手仕事の近世、近代、そして現代」(5)	
2 明治大学 Online Museum の制作 (6)	
3 その他の展覧会 (7)	
II 教育普及活動	9
1 講座 (9)	
2 博物館実習 (10)	
3 在学生対象事業 (10)	
4 アウトリーチ活動 (11)	
5 社会連携・大学間連携 (11)	
6 情報発信 (12)	
7 ボランティア受け入れ (13)	
8 明治大学博物館友の会 (13)	
III 研究活動	14
1 調査・研究活動 (14)	
2 研究業績 (15)	
3 刊行物 (15)	
IV 収蔵資料	16
V 統計・一覧・資料	23
1 入館データ (23)	
2 組織・構成 (26)	
3 予算・決算 (28)	
4 施設概要・見取り図 (30)	
5 規程 (32)	
6 2017 年度教育・研究に関する計画書 (38)	
7 2017 年度単年度計画重点項目一覧 (40)	
8 明治大学博物館のあゆみ (40)	

I 展示活動

1 特別展「鳥取の工芸文化 一手仕事の近世、近代、そして現代」

(1) 実施形態

主 催 明治大学博物館 共 催 明治大学社会連携機構
 後 援 鳥取県 鳥取県教育委員会 千代田区
 会 期 2017年10月19日(木)～12月17日(日)60日間(会期中無休)
 会 場 アカデミーコモン B1 博物館特別展示室 129㎡ 入 場 料 ¥300 入 場 者 数 2,137名
 企画構成 外山 徹(商品部門学芸員)

(2) 趣旨

明治大学博物館商品部門が収集・展示のテーマとする「伝統的工芸品」について、その形成過程を大学の創立者岸本辰雄の出身地鳥取県を事例に調査・研究した成果を、地域連携事業の一環に位置付け発表した。

今日、伝統工芸とされているものは、元来、その地域の基幹産業を担った業種もあり、機械工業製品が普及する以前には日常の実用品として供給されていたものである。手作業と天然原料による非効率的な産業は、近代化の過程で縮小を余儀なくされた一方、機械で量産される廉価製品に対し、「伝統」「手作り」といった新たな価値付けがおこなわれた。通商産業省による「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」(略称：伝産法)が制定された1974年頃までには、一般的な工業製品とは異なる商品群として「伝統的工芸品」の概念が成立し、今日では地域のブランドイメージ構築に際しあらためて注目されつつある。

この展覧会では、鳥取藩政時代の物産が“近代”という変化の時代を経て、工芸品として復興され、現代に継承されてきた状況に着目し、「文化」を規定する上で大きな要素となる「伝統」とはいかなるものかと考えるべきか、時代背景・社会情勢との相互作用によって形成されてきたその実態を提示することを目標とした。

(3) 展示構成

①藩政時代の“御国産” 江戸期 口絵(3)

鳥取藩(池田家)は江戸初期から自領の和紙産地から用紙を買い上げており、藩領西部を主産地とする木綿と鉄は有力産地として全国的に知られた。必需品を領内で自給するとともに他領に対する産物輸出によって財政を強化する方針を採用し国産品生産を振興した。ここでは、領内から買い上げた和紙で作成されている専売制・産業振興に関わる藩政史料、陶器は久能寺焼、鉄製品は稲扱千歯、因幡錠といった実物を交えて紹介した。

②近代化 手工業の衰退 幕末～大正期 口絵(4)

明治新政府は工業の近代化を推進し、やがて製紙・製鉄は大資本による近代機械工業が台頭し、綿織物産業も備後緋をはじめ大規模産地が形成される。手漉きや砂鉄製錬法、糸車による手引きの製糸といった従来型の手作業はそれらに抗すべくもなかった。明治期に全盛を迎えつつも大正期に衰退する浜緋の古布と糸車、和紙関係では漉桁、陶器は民藝運動によって再評価・アレンジされる以前の牛ノ戸焼大酢徳利・鉄絵芦雁文大皿を展示した。

③工芸のルネッサンス 昭和戦前・戦後期 表紙写真・口絵(5)(6)

昭和に入り、民藝運動の同人であった鳥取出身の医師吉田璋也が帰郷して開業すると、地元の工芸の技術継承と時代の変化に応じた商品開発を指導した。牛ノ戸焼の緑釉黒釉染分皿、伸縮式中折傘木製電気スタンド、にぎりネクタイなど初期の開発品を紹介。浜緋は銀座たくみ工藝店に勤務した嶋田太平とその家族の尽力によって復興され、後に国指定伝統的工芸品弓浜緋となる。その復興過程の古布を展示。因州和紙も、洋紙に押されつつも書道用紙、工芸紙と商品の転換によって存続が図られてきたことを各年代の和紙見本帳で紹介した。やがて民芸品は戦後の高度経済成長期においてブームと呼ばれる時代も到来するが、その時、明治大学商品陳列館が収集した陶磁器・郷土玩具を展示。

④鳥取発 手工芸の現在 現代 口絵 (7)

鳥取県では農水産品の生産・販売と観光振興に並行して文化的イメージの対外発信に注力している。伝統的工芸品産業は規模としては零細であり基幹産業になり得る存在ではないが、豊かな創造性のアイコンとして鳥取県の地域ブランドを向上させるイメージ戦略を担い、県の文化・産業・観光振興への寄与が期待されている。ここでは、前出の工芸品について現代の製品（因久山焼、牛ノ戸焼、因州中井窯製品、上神焼、弓浜緋、倉吉緋、因州和紙）を展示。また、工芸品を掲載した観光案内のパンフレット類を紹介した。

(4) 展示資料の概要

出展総数 98 点（出展品 46 点・館蔵品 52 点） ※パンフレット類を除く
出展機関 鳥取県立博物館 鳥取市あおや和紙工房（寄託品） 鳥取民藝美術館

(5) 関連イベント

①開催記念講演会 ※リバティアカデミー・オープン講座として開催

タイトル 工藝のルネッサンス—民藝のプロデューサー・吉田璋也
講師 木谷清人（公財）鳥取民藝美術館常務理事（公財）鳥取市文化財団理事長
日時 2017 年 11 月 11 日（土）13:30～15:30
会場 明治大学リバティタワー 12F 1126 教室 参加者 59 名

②開催記念トークセッション ※博物館友の会と共催

タイトル ススム トットリー “ノイズ” としての地方と工芸
講師 本間 公 工作社代表/木工職人 鞍田 崇 明治大学理工学部准教授
日時 2017 年 12 月 16 日（土）15:00～17:00
会場 明治大学 12 号館 10 F 2103 教室 参加者 30 名

③公開特別講義 ※商学研究科共催公開特別講義として開催

タイトル 鳥取県における民工芸振興策の刷新と実践—手作りのやきもの等を事例として—
講師 大江啓司 鳥取県商工労働部兼農林水産部市場開拓局販路拡大・輸出促進課民工芸振興官
日時 2017 年 11 月 10 日（金）10:50～12:30
会場 明治大学リバティタワー 2 F 1021 教室 参加者 291 名

④ギャラリートーク

2017 年 12 月 10 日（日）13:00～13:45 12 月 16 日（土）13:00～13:45

2 明治大学 Online Museum の制作

「明治大学 Online Museum」は、博物館コレクションにもとづく各種のデジタルコンテンツをインターネットで公開することにより、従来の展示、生涯学習講座とは異なる形でコレクションの詳しい学術情報を市民・研究者等に提供することを目的としている。2017 年度には、刑事・商品部門の常設展示室バーチャル・ツアーを制作し、これにより三部門のコンテンツ制作が完了した。収蔵資料データベースのコンテンツ・マネジメント・システムの実装に伴い、データベース項目の入力を開始した。2018 年度前半には公開を開始する。

3 その他の展覧会

(1) 主催・共同主催展覧会

①新収蔵資料展 20世紀前期の陶磁資料群

鍋島焼の近代／柿右衛門様式の復興／その他

会 期 2017年3月1日～4月9日 40日間

入場者数 1,952名

比較的近年のものながら将来美術史上に貴重な遺産となり得る、まとまった数の陶磁器関係資料を受贈した。乳白色の磁胎に赤・緑の上絵を特徴とする柿右衛門様式は17世紀後半における輸出仕様のデザインだが、第2次大戦後、第12、13代酒井田柿右衛門によって復興されている。受贈した資料の中には12代作とされる染錦手も多く含まれ、その青味を帯びた素地の色と柿右衛門様式の濁し手と呼ばれる純白の肌合いを比較することができた。

②新収蔵・収蔵資料展 2017

会 期 2017年4月15日～5月28日 44日間

入場者数 2,751名

2016年度に博物館が新たに収集・受贈した資料および関連する収蔵資料を紹介。刑事部門では、館蔵の出羽国関係文書の参考資料として米沢藩領域を描いた絵図、掲出された村名と管轄する役所の判明する高札、組打ち・捕縄術の浅山一傳流関係史料など。商品部門は、備前焼の中でも、作り手の個性・創造性を追求する作家活動による現代的な作風の作品。考古部門では玉里舟塚古墳武人埴輪矛形土製品のレプリカを展示。

③十手と錦絵一描かれた捕者の世界

会 期 2017年9月6日～10月10日 35日間

入場者数 3,725名

錦絵には芝居の一コマとして十手や刺又、突棒などを使った捕縛の様子が描かれているものもあり、捕者道具のイメージをより生き生きと伝えている。旧刑事博物館設立(1929年)当初から収集している十手や刺又などの捕者道具と錦絵を組み合わせ、当時の捕者のイメージを豊かに描いた。

本展示は日本史専攻の学生有志が中心となり、企画制作を行った。

④力の誇示・馬形埴輪の世界

会 期 2018年2月3日～3月4日 30日間

入場者数 2,718名

古墳時代に大陸からもたらされた馬は、権力者の所有物や軍事的な用途として広く受け入れられ、やがて埴輪として古墳に樹立されるようになった。馬形埴輪はその大きさや表現される馬具などを誇張させ、権威の象徴となるとともに各地域独自の表現を見せるようになる。当館所蔵の茨城県・栃木県の馬形埴輪を展示し、その様相をたどった。

⑤アンコール展示

十手と錦絵一描かれた捕者の世界

会 期 2018年3月10日～4月8日 30日間

入場者数 2,856名

2017年9月に行った十手と錦絵展が非常に好評で、会期が短く見逃したという声に応じて行ったアンコール展示。一部展示品の入れ替えを行い、刑事部門の代表的コレクションである十手と錦絵を組み合わせ、江戸時代の捕者のイメージを豊かに描いた。

(2) 学内団体・外部団体による展覧会

①明治大学図書館所蔵 エジプト学貴重書展

明治大学文学部佐々木憲一研究室 主催

会 期 2017年6月3日～6月27日 25日間

入場者数 2,590名

ナポレオンが1798年にエジプトに侵攻した際の報告書『エジプト誌』初版(1809～22)、ベルリン大学エジプト学初代教授レプシウスの調査報告書『エジプト・エチオピアのモニュメント』(1849～59)、ヒエログリフを解読したシャンポリオンによる調査報告書『エジプトとヌビアのモニュメント』(1835)など、数多くの貴重書を明治大学図書館で所蔵している。これらは「貴重書」であるがゆえに一般公開される機会が少なかったため、博物館で特別公開した。

②進化する不可能立体錯視

～真実がわかっても逃れられない不条理の世界～

明治大学先端数理科学インスティテュート「錯視の心理的・数理的アプローチの融合研究プロジェクト」、私立大学研究ブランディング事業「数理科学する明治大学」錯視学研究グループ 主催

会 期 2017年7月4日～8月19日 40日間

入場者数 9,255名

「不可能立体の絵」と呼ばれるだまし絵の中には、その名に反して立体化できるものがあり、さまざまな種類の不可能立体が見つかってきた。本企画展では、あり得ない動きが見えてくる「不可能モーション立体」、鏡に映すと姿が変わる「変身立体」、回転させると形が徐々に変わるように見える「軟体立体」などを発見順に第1世代から第6世代までに分類して展示した。立体の形を理性で理解した後でも、特別な視点から眺めると再び錯覚が起こってしまう脳の不条理が体験できた。

③中国「革命宣伝画」展

明治大学現代中国研究所 主催 (白水社 後援)

会 期 2018年1月10日～1月30日 21日間

入場者数 3,403名

革命宣伝画(プロパガンダ・ポスター)は中国共産党の正統性を宣伝するとともに、最高指導者としての毛沢東を唯一無二の至高の存在として称揚し、その思想を普及させるための政治的な増幅装置だった。それは人民を教化、支配する装置として進化・発展し、文化大革命の混乱と狂気のなかでその頂点を迎えた。展示では、革命宣伝画の原画約100枚、毛沢東バッジとその金型、文革グッズ、文革関連書籍などを一挙公開した。

④茨城県大日塚古墳の埴輪—最新の発掘調査成果から—

明治大学文学部考古学研究室 主催

会 期 2018年2月3日～3月4日 30日間

入場者数 2,718名

行方市に所在する大日塚古墳は、猿の埴輪（東京国立博物館蔵）が出土したことで全国的に有名である。2015年の文学部考古学研究室による発掘調査で、高さ1mを超える家形埴輪や4体以上の人物埴輪が発見され、大日塚古墳における形象埴輪群の様相を復元する重要な成果が得られた。これらの埴輪群を初めて公開し、常陸の古墳時代史での位置づけを考えた。

(3) コレクション展

①商品部門

ア 日用食器としての施釉陶器

期間 2017年3月8日～7月18日 133日間

施釉陶器が日用食器として使用されるようになった経緯を磁器との関係にも留意しつつ紹介。

イ 鮮やかな色彩—美濃、桃山陶の美—

期間 2017年7月19日～12月17日 144日間

美濃焼の伝統的工芸品として有名な志野・黄瀬戸・織部・引出黒の施釉技法と、同じカテゴリー内での色の違いを紹介。

ウ 村上木彫堆朱

期間 2017年12月18日～2018年3月26日 86日間

村上木彫堆朱の製作工程を展示することによる、技法の紹介。

エ 小千谷 縮 紬

期間 2018年3月27日～5月28日 63日間

小千谷縮の成立と生産減少の歴史、現在の産地の取り組みを、同産地の紬と共に展示。

②刑事部門

ア 帳外 なぜ、彼らの名前は人別帳から消されたのか

期間 2017年2月21日～6月14日 114日間

帳外がどのような者に対しておこなわれ、どのような意味を持っていたのかを古文書から明らかにした。

③考古部門

ア 明大コレクション 36：亀ヶ岡遺跡の土器

期間 2017年2月2日～5月25日 113日間

青森県亀ヶ岡遺跡出土の土器群（縄文時代晩期）を展示。

器形の多様さと文様の変遷を紹介。

イ 明大コレクション 37：楽浪郡の漆器と瓦

期間 2017年5月27日～7月25日 60日間

漢王朝が朝鮮半島北部に築いた楽浪郡出土の漆器や銘文瓦などを展示。

ウ 明大コレクション 38：前場幸治コレクション⑤

奈良時代の瓦

期間 2017年8月1日～9月25日 48日間

平城宮や東大寺など奈良時代の瓦を展示。宮殿造営という大規模工事における合理的な瓦製造体制について紹介。

エ 明大コレクション 1：中国鏡

期間 2017年11月10日～2018年2月19日 89日間

戦国代から隋唐代までの中国鏡40面を展示。鏡の形状や文様の変遷を紹介。

オ 明大コレクション 39：大湯環状列石

期間 2018年2月21日～6月3日 103日間

本学教授だった後藤守一氏が1945、51、52年に調査・収集した秋田県鹿角市の大湯環状列石の資料のうち、石器・土器・土製品を紹介。

(4) 図書館ギャラリー展示

①中央図書館ギャラリー

タイトル 明大博物館コレクション PART 1

—博物館のはじまり—

会 期 2017年6月2日～7月10日 39日間

刑事部門は昭和戦前における捕者道具コレクション、商品部門は原材料標本・貿易商品から地方物産品への展開、考古部門は旧石器時代発見の地である岩宿遺跡、戦後日本考古学の出発点となった登呂遺跡などの出土資料を展示し、3博物館時代の草創期について紹介した。

②生田図書館 ギャラリー ZERO

タイトル 戦後経済復興を彩る新素材

—明治大学商品陳列館黎明期のコレクションから—

会 期 2018年1月12日～1月21日 10日間

旧商品陳列館において1950年代後半から1960年代にかけて収集された国産初の化学繊維であるビニロンやサラシ、フェノール、ユリア、塩化ビニール、ポリエチレンといった合成樹脂。高度成長前期に夢の新素材として期待された石油化学製品を紹介した。

II 教育普及活動

1 講座

(1) リバティアカデミー博物館入門講座

①使って楽しむやさしの講座3

日時	2017年6月6日～7月18日 隔週火曜日 15:00～16:30〈全4回〉		
定員	20名		
会場	博物館教室		
講師	外山徹(商品部門学芸員)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	16名
《趣旨》 手作りゆえに製造コストの高い伝統的工芸品の価格に見合う顧客価値のあり方を考える。			
①陶祖伝承を探る ②九谷焼とは何か？ ③手仕事×機械工程 ④移り変わる器の形			

②東国の古墳文化を考える

日時	2017年7月6日～7月27日 木曜日 15:00～16:30〈全4回〉		
定員	30名		
会場	博物館教室		
講師	忽那敬三(考古部門学芸員)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	18名
《趣旨》 常設展リニューアル部分を中心に「古墳」とは何か、また古墳時代そのものについて、明治大学が調査・収集してきた実物資料を観察しながら考える。			
①古墳時代とはなにか ②東国の前期古墳と土器 ③群集墳の出現 ④埴輪のまつり			

③今日から始める古文書講座

日時	2017年10月31日～2018年1月23日 火曜日 15:00～16:30〈全4回〉		
定員	18名		
会場	博物館教室		
講師	日比佳代子(刑事部門学芸員)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	18名
《趣旨》 古文書を初めて勉強する人、漢字で記述された日常の記録を読みたい人に向けた超初級古文書講座。			
①江戸時代の古文書を読む ②江戸時代の古文書を読む ③江戸時代の古文書を読む ④江戸時代の古文書を読む			

(2) リバティアカデミー博物館公開講座

①明治大学博物館考古学ゼミナール

ア 第60回 青銅器はどこまで明らかになったか

【企画協力】明治大学文学部考古学専攻

日時	2017年6月9日～6月30日 金曜日 18:00～20:00〈全4回〉		
定員	150名		
講師	①北島大輔(山口市教育委員会文化財保護課)、 ②吉田広(愛媛大学ミュージアム)、③齋藤努 (国立歴史民俗博物館)、④清水康二(奈良県立 橿原考古学研究所)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	69名
《趣旨》 弥生～古墳時代の青銅器に焦点を当て、最新の研究成果により青銅器の実像がどこまで明らかになったのかを紹介。			
①古式銅鐸と弥生中期社会(北島) ②武器形青銅器の広がりと祭祀(吉田) ③鉛同位体比からみた青銅器原料の産地(齋藤) ④鏡の鋳型から見た三角縁神獣鏡(清水)			

イ 第61回 人類・資源環境系のダイナミクス

日時	2017年11月10日～12月8日 金曜日 18:00～20:00〈全5回〉		
定員	100名		
講師	①小野昭(学長特任補佐)、②橋詰潤(黒耀石 研究センター)、③眞島英壽(黒耀石研究セン ター)、④島田和高(考古部門学芸員)、⑤大工 原豊(黒耀石研究センター)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	49名
《趣旨》 人類・資源環境系研究は、先史時代の食料資源や道具の原材料などの資源獲得の観点から、多様な時空に展開する人間社会の特質と歴史的な展開を明らかにする。これまで明治大学が蓄積してきた人類・資源環境系研究の成果を紹介した。			
①人類と資源環境系のダイナミクスとはなにか？(小野) ②氷河期末の環境変動にヒトはどう向きあったのか？(橋詰) ③黒耀石の地球科学と分析化学(眞島) ④黒耀石と人類史研究の最前線(島田) ⑤縄文社会の黒耀石開発と流通機構(大工原)			

(3) リバティアカデミー・オープン講座

特別展開催記念講演会 工芸のルネッサンス
—民藝のプロデューサー・吉田璋也

日時	2017年11月11日 土曜日 13:30～15:30		
定員	100名		
会場	リバティタワー 1126 教室		
講師	木谷清人((公財)鳥取民藝美術館常務理事、(公財)鳥取市文化財団理事長)		
受講料	無料	受講登録者数	59名

《趣旨》

鳥取県における民藝運動を主導したのが医師吉田璋也であった。その試みは新作民藝運動として、その後、全国の民芸品産地を活性化させる動きの嚆矢として評価されている。本講座では自ら民藝のプロデューサーを任じた吉田璋也の人となり、新作民藝の作品の紹介を通して、在来の手工業が「工藝」として再生される歴史的経緯に迫る。

(4) リバティアカデミー・生田キャンパス講座

①お殿様の領地経営

日時	2017年10月26日～11月9日 木曜日 15:00～16:30〈全4回〉		
定員	50名		
会場	地域産学連携センター多目的室		
講師	日比佳代子(刑事部門学芸員), 外山徹(商品・刑事部門学芸員)		
受講料	¥4,000	受講登録者数	10名
《趣旨》	大名が領地にどのように向き合っていたのかという切り口から、大名の領地経営の諸側面を紹介した。		
①大名と転封			
②「御国産」の振興			
③領地の外との関係			

(5) 商学研究科と共催の公開特別講義

商学部・商学研究科連携

伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.12

鳥取県における民工芸振興策の刷新と実践

—手づくりのやきもの等を事例として—

日時	2017年11月10日 金曜日 10:50～12:30		
会場	リバティタワー 1021 教室		
講師	大江啓司(鳥取県商工労働部市場開拓局販路拡大・輸出促進課民工芸振興官)		
パネリスト	菊池一夫(商学部教授), 福田康典(商学部教授), 上原義子(商学部兼任講師・高千穂大学商学部准教授)		
進行	外山徹(商品部門学芸員)		
受講料	無料	受講者数	291名
商学研究科「商品学特論B」, 商学部「商品学B」「商業経営論B」「市場調査論B」の拡大版として実施。県政の刷新にとともに、民工芸振興策も従来の補助金交付策中心の考え方を修正し、消費者・消費地に対するプロモーションのサポートを重視するようになった。商品開発, 流通形態, ブランディング戦略のあり方などを討論した。			

2 博物館実習

(1) 館務実習

①商品部門

《参加者数》

明治大学 8名

《実習内容》

館内施設・設備見学, ワークシート作成実習, 収蔵資料整

理, 特別展受付

②刑事部門

《参加者数》

明治大学 12名

《実習内容》

館内施設・設備見学, 収蔵資料整理, 特別展受付

③考古部門

《参加者数》

明治大学 16名, 上智大学 1名, 東洋大学 1名

《実習内容》

収蔵資料整理, 坂本万七写真研究所コレクション整理, 企画展パネル等製作, 特別展受付

(2) 見学実習

2017年9月14日 南山大学学芸員課程 25名

3 在学生対象事業

(1) 学部間共通総合講座

秋学期開講 月曜4限

博物館の歴史及び大学博物館の成立事情から大学博物館の社会的な使命までを理解する。授業では、学術資源の豊富な収蔵を特徴とする大学博物館を事例として、資料収集の経緯と手順、学術資源として幅広く研究に活用されるための手当て、さらに研究成果を社会に還元する装置としての展覧会開催に言及し、大学及び大学博物館と一般市民による生涯学習活動との関わりなど、収集・研究・教育という博物館活動の一連の流れを理解する。

回	テーマ	担当者
①	近代博物館の成立と大学博物館	矢島國雄※
②	我が国における大学博物館の現状	外山 徹
③	博物館資料の形成2(弥生・古墳資料)	忽那敬三
④	博物館資料の形成1(旧石器・縄文資料)	島田和高
⑤	博物館資料の形成3(刑事関係資料)	外山 徹
⑥	博物館資料の形成4(商品関係資料)	外山 徹
⑦	博物館の施設・設備	島田和高
⑧	博物館資料の保管と整理1(考古資料)	忽那敬三
⑨	調査・研究と資料の公開(古文書資料)	日比佳代子
⑩	展覧会の開催まで(2017年度特別展)	外山 徹
⑪	博物館資料の発掘と調査・研究	島田和高
⑫	博物館資料の保管と整理2(古文書資料)	休講
⑬	生涯学習活動と友の会活動	忽那敬三
⑭	総括 ふりかえりと意見交換	矢島國雄

受講登録者数 17名

※文学部教授(学芸員養成課程)・博物館運営委員・本講座コーディネーター

(2) 国際日本学部「文化資料学」

春学期開講 月曜5限

《授業の概要・到達目標・目的》

現代日本文化の基層を形成するものとして、日本の歴史や過去の生活文化に対する理解は欠かせない。今日、我々は学校教科書をはじめ多様なメディアを通してそれらを学ぶことができるようになったが、そこに示されている事柄は、一体、どのようなプロセスを経て明らかにされてきたのだろうか。それらは様々な文化資料（文化財）に対する調査・研究の積み重ねによって成り立っている。この授業では、文化資料（文化財）として最も広範に遺されている考古・歴史・民俗資料について取り上げた。これらの資料は地域博物館の収蔵体系の中心をなすものでもある。学術研究や教育普及への利用に供するため資料がどのように整理・保存・活用されているのかを講義形式で学び、博物館が収蔵する実物資料の取り扱いや街中で目にするのできる文化財指定物件のツアーを通して資料活用の状況を理解する。

回	テーマ	担当者
①	文化財とは何か？ —文化財保護法とユネスコ世界遺産	外山
②	考古遺物と文化1（旧石器・縄文時代）	島田
③	考古遺物と文化2（弥生・古墳時代）	忽那
④	遺跡の保存と活用1（旧石器・縄文時代）	島田
⑤	遺跡の保存と活用2（弥生・古墳時代）	忽那
⑥	考古資料の展示と保管	島田
⑦	発掘された土器の洗浄と接合—考古資料の整理	忽那
⑧	古文書とは何か？—歴史叙述はどこから生まれるのか	日比
⑨	民俗資料とは何か？—庶民の生活史を明らかにする	外山
⑩	古文書を見せる—古文書の展示で歴史を描く	日比
⑪	有形民俗資料（民具）—祖先の暮らしを知る	外山
⑫	古文書の整理—古文書はどのように後世に伝えられるのか	日比
⑬	金石文—地域に遺された歴史の痕跡	外山
⑭	ふりかえり（ディスカッションと授業内小テスト）	日比

中野キャンパス開講 受講登録者数 17名

4 アウトリーチ活動

実施なし

5 社会連携・大学間連携

(1) 地域連携

実施なし

(2) 大学間連携

南山大学人類学博物館との交流事業

①交換展示の実施

ア 三河武士内藤家、大名への道

会 期 2017年9月30日～11月5日 入場無料

会 場 南山大学人類学博物館常設展示室

イ 『二十世紀の石器時代人』を求めて

—南山大学東ニューギニア学術調査団の軌跡—

会 期 2017年9月30日～11月5日 入場無料

会 場 明治大学博物館常設展示室

②一般社会人向けギャラリートーク

ア 東 京 2017年10月14日 14:00～15:00

テーマ フィールド調査の記憶～東ニューギニア学術調査団のみた高山地帯の人々～

講 師 黒沢 浩（南山大学人文学部教授）

参加者 34名

イ 名古屋 2017年10月28日 14:00～15:00

テーマ 家長、政長、忠興からみる内藤家の歴史

講 師 日比佳代子（刑事部門学芸員）

参加者 22名

③協定事業シンポジウム

「ハンズ・オンの可能性を考える」

主 催 明治大学博物館、南山大学人類学博物館

共 催 全日本博物館学会、日本展示学会

日 時 2017年11月27日

会 場 明治大学博物館常設展示室（ワークショップ）

明治大学アカデミーコモン 308E 教室

参加者 51名

趣 旨

1990年代後半から日本で普及した、実物やレプリカなどに実際に触れて学ぶ展示・教育手法である「ハンズ・オン」について、その傾向や問題点、今後の可能性について検討した。午前中にはワークショップとして当館友の会の展示解説員ボランティアが通常実施しているハンズ・オンをシンポジウム参加者が体験した。

内 容

11:00～12:00 ワークショップ

13:00～17:00 シンポジウム

<開会挨拶> 村上一博（明治大学博物館館長）

<司 会> 外山 徹（明治大学博物館学芸員）

第1部 ハンズ・オン事例報告

①「レプリカと実物資料の使い分け—明治大学博物館における歴史系資料のハンズ・オン事例」

忽那敬三（明治大学博物館）

②「博物館における未就学児の学び—国立科学博物館「親と子のたんけんひろば コンパス」を事例に—」

小川達也（国立科学博物館事業推進部学習課）

③「日本民家園らしいハンズ・オンってなんだろう？—民俗系博物館にありがちな体験モノから脱出奮闘中—」

関 悦子（川崎市立日本民家園）

<コメント> 布谷知夫 (全日本博物館学会会長)

第2部 ハンズ・オンの可能性

①「科学系博物館におけるハンズ・オン」
小川義和 (国立科学博物館附属自然教育園園長)

②「ハンズ・オンが機能するとき」
柴川香澄 (ハンズ・オンプランニング)

③「触る展示の可能性」
黒沢 浩 (南山大学)
<コメント> 若生謙二 (日本展示学会会長)

第3部 討論

<司 会> 矢島國雄
(明治大学, 全日本博物館学会総務委員)

④在学向け特別講義

ア 南山大 2017年5月2日 1限

テーマ 大学博物館の使命と機能
講師 外山 徹 (商品部門学芸員)
受講生 69名

※黒沢浩教授「博物館概論」として実施

イ 明治大 2017年10月27日 5限

テーマ 次世代博物館としてのユニバーサル・ミュージアム
講師 黒沢 浩 (南山大学人文学部教授)
受講生 29名

※学芸員養成課程「博物館実習」として実施

6 情報発信

(1) 印刷物

①明治大学博物館広報誌『ミュージアム・アイズ』

A4判 16頁 各5,000部
69号特集 特別展鳥取の工芸文化
70号特集 明治大学博物館友の会30周年

②『明治大学博物館年報2016年度』80部
ウェブ公開のため配布は学内関係者のみ

③その他

展覧会案内2018年(A4三ツ折) 12,000部

(2) ホームページの公開

ニュース一覧/イベント一覧/ごあいさつ, 明治大学博物館の理念・目標/展覧会案内—これまでの展覧会, 2017年展覧会案内, 2018年展覧会案内/来館案内—開館時間・休館日・アクセス等, 館内の取材・撮影について, 博物館蔵資料の利用/図書・古文書の利用—博物館図書室, 古文書閲覧のご案内/団体見学について/教育プログラム/ミュージアムショップM2/展示部門紹介—大学史展示室, 商品部門, 刑事部門, 考古部門/博物館の重点事業(政策経費の取り組み)/学芸スタッフ紹介/明治大学博物館友の会—入会のご案内, 行事予定, 展示解説ボランティアについて, 図書室受付ボランティアの募集について, 分科会のご案内/広報誌「ミュージアム・アイズ」/博物館年報/明治大学博物館アーカイブ

(3) 報道機関等による取材

①新聞・雑誌掲載

明治大学博物館紹介 「HACO*NIWA」2017年夏号 庭のホテル東京

明治大学博物館 考古部門紹介 『みんなの神田・神保町・御茶ノ水』 京阪神エルマガジン社

明治大学博物館 刑事部門紹介 「朝日新聞」夕刊6月8日 朝日新聞東京本社

明治大学博物館紹介 『ほしで拓也 県政報告書』ほしで拓也事務所

明治大学博物館 考古部門紹介 『ひよこクラブ』8・9月号 ベネッセコーポレーション

明治大学博物館 刑事部門紹介 『週刊サンデー毎日』毎日新聞出版

明治大学博物館紹介 『K-RITs』 共立女子大学・文芸学部

明治大学博物館紹介 『ぶらぶらミュージアム』 交通新聞社

明治大学博物館 刑事部門紹介 『東京マニアック博物館 おもしろ珍ミュージアム案内 決定版』 メイツ出版

明治大学博物館 刑事部門紹介 『神田・神保町・御茶ノ水本』 樫出版社

明治大学博物館紹介 『テーマガイド 大人も楽しい博物館に行こう』 昭文社

明治大学博物館紹介 『別冊カドカワ DirecT 10』 KADOKAWA

明治大学博物館 刑事部門紹介 『親子で自由研究 関東穴場スポット 100』(仮) 山川出版

②テレビ放映

明治大学博物館紹介 「東京サイト」 テレビ朝日

明治大学博物館 考古部門展示資料紹介 「稲米之道」 中国中央電視台

時田昌瑞ことわざコレクション紹介 「極上!お宝サロン」 BSジャパン

明治大学博物館紹介 「TOKYO ディープ!」#77 『カルチュ・ラタン 御茶ノ水』 NHK BSプレミアム

明治大学博物館紹介 「マツコの知らない世界」 TBSテレビ

明治大学博物館 刑事部門紹介 「噂の!東京マガジン」 TBSテレビ

明治大学博物館紹介 「スクール革命!」 日本テレビ

明治大学博物館 考古部門撮影 「特捜9」 テレビ朝日

③ラジオ放送・ウェブサイト・その他

明治大学博物館紹介 「DK SELECT いい暮らしナビ」 大東建託

明治大学博物館紹介 Webマガジン「yuune」 リクルートジョブズ

明治大学博物館 刑事部門紹介 お出かけ情報サイト

「レッツエンジョイ東京」ぐるなび・東京メトロ

明治大学博物館紹介 「AERA dot.」 朝日新聞出版

明治大学博物館 刑事部門紹介 「ロケットニュース24」ロケットニュース24

明治大学博物館 刑事部門紹介 「駿河台大学法学部ホー

ムページ」 駿河台大学
 明治大学博物館紹介 web メディア「アイスム」

(4) ミュージアムショップ

- ①グッズ販売
 ミュージアムグッズの見本を展示
 受付窓口で刊行物等有償頒布
- ②他館の情報
 大学博物館および関連する博物館・美術館のリーフレット・チラシを配布
- ③来館者の声
 来館者による展示見学に関するアンケート用紙を掲示
- ④友の会ブース
 博物館友の会の活動報告 お知らせの掲示
- ⑤博物館からのお知らせ
 博物館のイベント情報 報道機関の博物館・美術館関係の記事切り抜きの掲示

7 ボランティア受け入れ

(1) 常設展解説ボランティア

- ①参加者：友の会会員 45名
 ②研修日程及び内容

日程	研修種別種別	担当者
2017年 5月24日	考古部門1 考古部門2	旧石器時代・縄文時代 他
5月31日	考古部門3 考古部門4	弥生時代・古墳時代 他
6月7日	商品部門1 商品部門2	伝統的工芸品の成立 伝統的工芸品の文化的背景
6月21日	商品部門3 商品部門4	移り変わる商品 伝統的工芸品の価値創造
6月28日	刑事部門1 刑事部門2	日本の罪と罰、捜査と逮捕 他
7月5日	博物館教育	展示解説の理念と博物館教育 の特性
	刑事部門3 刑事部門4	取り調べ刑罰 他
2018年 2月28日	3部門	フォローアップ研修

(2) 図書室ボランティア

- ①友の会会員：受付・入退出対応 28名

8 明治大学博物館友の会

- ①会員数 581名
 ②総会 2017年5月13日
 ③講演会
 ア 総会特別講演会「百舌鳥・古市古墳群と河内政権」
 2017年5月13日

- 大阪大学大学院教授 福永伸哉
 イ 第9回古代史講演会「亀ヶ岡遺跡の漆文化」
 2017年4月22日
 つるが市教育委員会文化財課 佐野忠史
 ウ 第10回古代史講演会「ヨーロッパの後期旧石器時代の美術」
 2017年6月17日
 東京藝術大学講師 五十嵐ジャンヌ
 エ 講演会「日本考古学2017」
 2017年9月24日
 「東国前方後円墳の実像」
 明治大学文学部准教授 若狭徹
 「沖縄旧石器時代研究の新たな展開—南回りルートの現状と課題」
 沖縄県立博物館・美術館主任学芸員 山崎真治
 オ 近世史講演会「富くじと江戸町人文化」
 2017年10月7日
 成城大学・武蔵大学・早稲田大学・立正大学非常勤講師 滝口正哉
 カ 第11回古代史講演会「富山市杉谷古墳群の調査と北陸における古墳の出現過程」
 2017年12月2日
 富山大学人文学部准教授 高橋浩二
 キ 世界史講演会「蒼き狼—チンギス・ハン伝の虚実」
 2018年1月20日
 内蒙古大学蒙古学研究中心専職研究員 赤坂恒明
 ク 会員発表会と講演会
 2018年2月24日
 第一部
 「神津島への往復航海」 高川博会員
 「飛鳥・藤原の百年」 荒木茂会員
 「南部の光武者 北十左衛門」 黒沢誠悦会員
 第二部
 「ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究」
 明治大学博物館学芸員 忽那敬三
 ケ 第12回古代史講演会「中央集権への胎動—国造と屯倉制—」
 2018年3月14日
 東洋大学文学部教授 森公章
 ④見学会
 ア 第22回会員案内による地元見学会「歴史と人形の街『岩槻』を歩く」
 2017年4月6日
 案内会員 長野陽次
 現地案内 岩槻観光ボランティアガイド会
 (中村守他1名)
 イ 宿泊見学会「関東の遺跡を訪ねて」—その1上野国(群馬)—
 2017年7月1日～2日
 同行講師 明治大学博物館学芸員 忽那敬三
 協力会員 都澤純人

ウ 見学会「江戸時代を探訪する Part VI 千代田区の近世・近代を歩く」

2017 年 7 月 15 日

同行講師 千代田区地域振興部文化振興課文化財係主事学芸員 長谷川怜

同行講師 千代田区地域振興部文化振興課文化財係調査指導員 相場峻

エ 博物館特別展関連見学会「鳥取の民芸と遺跡を訪ねて」

事前学習会 2017 年 11 月 8 日

見学会 2017 年 11 月 15 日～17 日

同行講師 明治大学博物館学芸員 外山徹

現地講師 上淀白鳳の丘展示館副館長 長谷川明洋

⑤ 広報活動

ア 会報発行 年 4 回 (春・夏・秋・冬)

イ 行事案内 友の会ホームページでの情報提供

ウ 友の会掲示板の活用, 行事チラシの作成

⑥ 博物館への協力

担当	活動日	活動者数
博物館図書室管理	開室日	28 名
展示解説員	火・水・木・金	45 名

⑦ 学習サークル (活動原則として月 1 回)

分科会名	会員数	担当者・講師
古文書を読む会	34 名	外山学芸員・森朋久氏※ 1
平成内藤家文書研究会	13 名	伊能秀明氏※ 2
工芸の会	11 名	外山学芸員
旧石器・縄文文化研究会	25 名	島田学芸員
弥生文化研究会	29 名	忽那学芸員
古文書の基礎を学ぶ会	33 名	日比学芸員
東アジアの中の古代日本研究会	30 名	
前方後円墳研究会	31 名	忽那学芸員
「倭国から大和」を学ぶ会	24 名	
古代東北アジアと日本研究会	18 名	

※ 1 明治大学農学部兼任講師

※ 2 中央図書館総務事務長

Ⅲ 研究活動

1 調査・研究活動

(1) 商品部門

① 「伝統的工芸品の経営とマーケティング」推進部会

< 第 1 回 > 2017 年 4 月 14 日 < 第 2 回 > 9 月 29 日

< 第 3 回 > 2018 年 1 月 12 日

② 山陰地方民藝陶器のマーケティング研究

ア 鳥取中西部調査 (2017 年 9 月 12 日～13 日)

上神焼, 法勝寺焼松花窯, 法勝寺焼皆生窯
館蔵品の製造元の後継者である中森 清氏, 安藤真澄氏,
安藤祐三氏から製作者等の情報を, また, 現在における
原料土, 製造技法, 商品開発等に関するヒアリング。
調査員: 福田康典 (商学部教授), 上原義子 (商学部兼
任講師・高千穂大学商学部准教授), 外山徹

イ 鳥根出雲地方調査 (2018 年 3 月 15 日～16 日)

出西窯, 楽山窯, 鳥根県しまねブランド推進課
窯の来歴, 原料土, 製造技法, 商品開発等に関するヒア
リング。鳥根県内における伝統陶磁器生産の概況, 県の
工芸品振興策及びブランディング政策における工芸品の
位置付けなど。
調査員: 菊池一夫 (商学部教授), 上原義子 (商学部兼
任講師・高千穂大学商学部准教授), 外山徹

調査員: 菊池一夫 (商学部教授), 上原義子 (商学部兼
任講師・高千穂大学商学部准教授), 外山徹

③ 2017 年度特別展に向けた調査

ア 2017 年 5 月 8 日～9 日

工房ゆみはま, 倉吉市ふるさと工芸館にて出展品選定,
上神焼中森窯, 中原商店 (因州和紙) にて出展品製作打
ち合わせ

イ 2017 年 5 月 24 日～25 日

鳥取県立博物館にて出展品選定・現状調査, 鳥取民藝
美術館にて出展品現状調査

ウ 2017 年 6 月 27 日～29 日

鳥取県立博物館, あおや和紙工房, 鳥取民藝美術館に
て出展品写真撮影/工房ゆみはまにて現状調査・梱包・
借用

(2) 刑事部門

① 学生参加の古文書調査

対 象 上総国武射郡津辺村文書

参加者 教員 2 名, 学生のべ 47 名

9 回開催 博物館会議室

② 学生による「十手と錦絵」展のための調査

対 象 館蔵十手・錦絵

参加者 学生 6 名

4 回開催

③ JSPS 科研費 26770230 「転封大名の新領における「藩」
構築過程の研究」(代表者: 日比佳代子) の研究を実施

した。

(3) 考古部門

①気候寒冷化による先史狩猟採集社会の遊動戦略の変化と人口動態

2014年度に採択された科学研究費助成事業基盤研究(C)(研究代表者:島田和高)は,2017年度が最終年度であった。先史黒曜石の長距離運搬に代表される巨視的地域における旧石器集団の黒曜石獲得の行動系の解明に対して,これまで看過されてきた中部高地原産地内部での微視的な獲得行動系の復元について後期旧石器時代前半期石器群である広原II遺跡の悉皆的な産地分析データを考古学的に解析し,研究をまとめた。研究成果は,明治大学黒曜石研究センター国際ワークショップ2017で発表した。2017年度末に日本語論文で成果を公開したほか,英語論文を2018年度に投稿する予定である。

②ウィリアム・ガウランド写真資料(寄託資料)関連資料の調査

科学研究費基盤研究(B)「ゴウランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築」(研究期間:2015年4月~2019年3月 研究代表者:一瀬和夫 京都橋大学教授)に忽那学芸員が研究協力者として参加。2018年3月12日~14日の日程で大英博物館収蔵のガウランドドキュメント資料の撮影及び内容の調査を実施。

③展示方法の視察及び館蔵資料関連遺物の調査

南山大学人類学博物館/ロンドン・大英博物館/茨城県立歴史館/高槻市立今城塚古代歴史館/佐野市立郷土資料館/元興寺文化財研究所/かみつけの里博物館/小田原城/群馬県立歴史博物館/大町山岳博物館/泉屋博古館

④伝玉里舟塚古墳資料および三味塚古墳武具整理作業

茨城県教育委員会・茨城県立歴史館・明治大学文学部考古学専攻と共同で報告作成作業(三味塚古墳は2018年,玉里舟塚古墳は2020年刊行予定)を実施。

2 研究業績

(1) 論文・著書

外山 徹 2017『特別展鳥取の工芸文化—手仕事の近世,近代,そして現代—』明治大学博物館
島田和高・橋詰 潤・小野 昭 2017「長野県中部高地における先史時代人類誌:広原遺跡群第1次~第3次調査報告書—発掘・遺物写真編(デジタル版)—」『資源

環境と人類』7:111-118+添付DVD所収分79p.

Shimada, K., Yoshida, A., Hashizume, J., Ono, A. 2017 Human responses to climate change on obsidian source exploitation during the Upper Paleolithic in the Central Highlands, central Japan. *Quaternary International* 442: 12-22

島田和高 2018「中部高地における後期旧石器時代前半期の黒曜石獲得をめぐる行動系:原産地分析の考古学的データ統合」『資源環境と人類』8号:67-82.

忽那敬三「世界のミュージアム 東京・明治大学博物館」『貝塚』73号,21-23

(2) 学会発表

島田和高「30~19kaにおける高山景観への人類適応:最終氷期最寒冷期の黒曜石原産地開発」JpGU-AGU joint meeting, 2017年5月25日,幕張国際会議場, H-QR05 ヒト-環境系の時系列ダイナミクス

Kazutaka Shimada. Obsidian procurement and accumulation process of a lithic assemblage at the Early Upper Palaeolithic site of Hiroppara II, Central Highlands, Japan. COLS International Workshop 2017: Palaeoenvironment and lithic raw material acquisition during MIS2 and early MIS1: a comparative perspective. 28 October, 2017, Meiji University, Tokyo, Japan. Oral presentation.

日比佳代子「大坂屋敷をめぐる記録管理について—内藤藩の事例から—」,科学研究費基盤研究C(代表母利美和)「近世中後期上方支配における山城国淀藩の基礎的研究」,科学研究費基盤研究B(代表岩城卓二)「末期における大坂・大坂城の軍事的役割と畿内近国藩」,大坂諸藩研究会,合同研究会,2017年8月30日,京都大学
忽那敬三「茨城県南部の形象埴輪配列—霞ヶ浦北岸を中心に—」埴輪研究会第18回大会,2018年1月27日,明治大学博物館

(3) 講演等

外山 徹「村絵図から歴史的景観を探る—江戸時代の村絵図は村落景観をどう伝えているか—」(平成29年度明治大学・天童市連携「てんどう笑顔塾」2017年5月27日)

3 刊行物

2017年度に予定していた『明治大学博物館研究報告』第23号および大久保忠和考古学振興基金成果報告書の刊行は2018年度に延期となった。

Ⅳ 収 蔵 資 料

(1) 資料収集

①資料数（部門別）

	刑事	考古	商品	合 計
受 購入	1	1	23	25
入 受贈	4	0	20	24
合計	5	1	43	49
前年度総数	215,051	83,661	4,881	303,593
当年度総数	215,056	218,636 ※	4,924	438,616
時田昌瑞ことわざコレクション				1,450
前場幸治瓦コレクション				10,725
総合				450,791

※ 2017 年度の校地内遺跡発掘出土品の一括譲与による。

《参考》年度別収蔵数（部門別）

	刑事		考古		商品	
	購入	受贈	購入	受贈	購入	受贈
2013	17	97	13	31	2	2
2014	16	193 ※	1	4,923	1	2
2015	8	1	2	0	20	13
2016	14	0	2	0	6	84
2017	1	4	1	0	23	20

※他に未整理文書 19 箱分あり

②購入資料一覧

種別・分類	資料名
絵画資料	松竹梅湯嶋掛額 八百屋お七／芳年画
考古遺物 レプリカ制作	大英博物館所蔵 伝武蔵国出土女子埴輪
商品資料	因久山焼・藁白釉茶盃 因州中井窯・染分三色 8 寸皿 因州中井窯・染分手付角皿 因州中井窯・染分縁抜き 8 寸皿 因州中井窯・掛分青白釉徳利 因州中井窯・掛分白黒釉マグカップ 弓浜緋・壁掛け「鶴一羽」 弓浜緋・壁掛け「丸熨斗」 弓浜緋・クッションカバー「葡萄」 倉吉緋・壁掛け「鶴亀松竹」 倉吉緋・のれん「向い蝶」 倉吉緋・テーブルセンター「七宝花菱唐草」 倉吉緋・袋「輪つなぎ」 倉吉緋・ランチョンマット「椿」 因州手漉き和紙見本 ①日本雁皮 ソーダ灰煮 未晒 板干 ②日本楮 ソーダ灰煮 未晒 板干 ③日本楮 苛性ソーダ煮 塩素漂白 ④日本三椏 ソーダ灰煮 未晒 ⑤日本三椏 苛性ソーダ煮 塩素漂白 因州和紙・ランプシェード「こもれび」 因州和紙・ランプシェード「月影」 上神焼・辰砂釉梅型鉢 上神焼・梨灰釉布目船徳利

③受贈資料

部門	資料名
刑事	私刑類纂 (1941 年, 宮武外骨著) 新律綱領 (1870 年, 司法省) 変態刑罰史 (1926 年, 澤田撫松著) 明治大学年鑑 1926
商品	薩摩焼・茶器揃 薩摩焼・汲出し 上野焼湯呑 (十代十時甫元) 上野焼五色酒呑 (香春窯) 琉球漆器・堆錦重箱 琉球漆器・盆 因幡の踊り傘 熊野化粧筆 フェイスアップセット 茶綿緋織テーブルセンター 緋織パッチワーク・ランチョンマット (2 点) 因州封筒 因州箋 因久山焼 珈琲碗 因久山焼 海老文盃 因久山焼 藁灰釉盃 因久山焼 辰砂釉盃 因久山焼 紅葉文盃 因久山焼 刷毛目文ぐい呑み 因久山焼 藁灰釉ぐい呑み

④寄託資料

- ア 『刑罪大秘録』他 3 点：受託期間 2017 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日 ※5 年ごとに更新
- イ 故里見庫男氏所蔵文書 (3373 点)：受託期間 2016 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日 (福島県いわき市域の村方文書。譜代大名内藤家の旧領地域。地元の郷土史研究団体 (いわき地域史学会) 及び大学院文学研究科日本史専攻生等による調査・整理作業がおこなわれた史料群) ※3 年ごとに更新
- ウ 大英博物館所蔵ガウランド写真資料複写 (458 点)：受託期間 2015 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 ※3 年ごとに更新

⑤埋蔵文化財

明治高等学校・中学校用地で学校法人明治大学が 2004 年～2007 年にかけて発掘調査を行った下原・富士見町遺跡出土品が、文化財保護法および 2011 年 12 月 12 日付「学校等建設予定地における埋蔵文化財発掘調査に関する協定書の一部を変更する協定書」に基づき、三鷹市・調布市の両教育委員会より本大学に譲与され、発掘記録等を含め博物館の保管資料となった。主な内容は、旧石器・縄文時代遺物であり、合計は 134,974 点である。

⑥資料修復

- ア 大室第 187 号墳鉄鏃 (保存処理) 1 件
- イ 筑後筑前豊後豊前四ヶ国之図 1 点

ウ 肥後日向両国之図 1点

⑦教材製作

該当なし

(2) 資料整理

①商品部門

ア 収蔵資料所在調査・再配架(陶磁器)

イ 受贈資料の整理(台帳カード作成及び梱包, 収蔵室への配架作業) 保存容器を作製し陶磁器関係資料を収納した

ウ 架蔵態勢の整備(収納箱ラベルの更新)

②刑事部門

ア 内藤家文書(近代史料, 政道氏寄贈, 近代寄贈)の整理

イ 上総国武射郡津辺村文書の整理

ウ 購入資料の整理

エ マイクロフィルム等2次資料整理

③考古部門

ア 坂本万七写真研究所寄贈写真資料の台帳整備

イ 茨城県舟塚古墳・三味塚古墳出土資料の整理

ウ 収蔵資料の所在確認

エ 矢島恭介資料の整理(点数・内容確認)

(3) 資料記録

①撮影

ア 商品部門

特別展図録掲載用写真(因久山焼, 牛ノ戸焼, 因州中井窯製品, 上神焼, 法勝寺焼, 砂丘焼, 弓浜餅, 倉吉餅, 因州和紙, 郷土玩具) 33カット

イ 刑事・考古部門

該当なし

②デジタル化

ア 商品部門

撮影—アの通り

イ 刑事部門

「奥州岩城平之城絵図」(内藤家文書)

ウ 考古部門

該当なし

(4) 資料利用

①資料貸出・掲載・撮影件数

	刑事	考古	商品	合計
一次資料 出品数	9点	640点	—	649点
レプリカ等 出品数	0点	6点	—	6点
撮 影	555点	9点	—	564点
掲載等	246点	221点	—	467点
合計	137件 810点	102件 876点	—	—

《参考》年度別資料利用数推移

	出展数(レプリカ内数)	撮影	掲載
2013	701(8)	1,123	582
2014	862(12)	1,184	576
2015	595(6)	885	472
2016	733(28)	797	547
2017	655(6)	564	467

②収蔵資料閲覧

調 査 閲 覧	刑事部門		考古部門
	古文書	マイクロ	
	1,106点	596リール	45件
人 数	105名		

《参考》年度別資料閲覧数推移

	刑事			考古
	古文書(点)	マイクロ(本)	人数	件数
2012	6,398	33	116	77
2013	3,858	137	182	68
2014	4,488	214	165	50
2015	3,913	269	254	35
2016	1,644	308	131	46
2017	1,106	596	105	45

③貸出先・展覧会・出展資料一覧

ア 刑事部門

(ア) 行田市郷土博物館

開館30周年記念第31回企画展「阿部正武と徳川綱吉」

展示期間: 2017年10月7日～11月26日

内藤家文書 増補追加(3) - 老中等奉書(2) - 408 江戸幕府老中連署奉書 端午為祝儀若君(徳松)へ銀子十枚献上に付披露 他 計7点

(イ) 大阪城天守閣

「特別展 幕末大坂城と徳川将軍」

展示期間: 2017年10月7日～11月26日

講武所槍術砲術銃隊拝見絵図 他 計2点

イ 考古部門

(ア) 岩手県立博物館

第68回企画展「遮光器土偶の世界」

会期: 2017年6月3日～8月20日

- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 計 1 点
 (イ) 岩宿博物館
 岩宿博物館 2 階常設展示室に展示
 展示予定期間：2017 年 6 月 13 日～11 月 12 日
 重要文化財 群馬県岩宿遺跡出土品 計 39 点
 (ウ) 港区教育委員会
 港区立港郷土資料館常設展示
 借用期間：2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日
 東京都芝公園出土須和田式壺形土器 他 計 109 点
 (エ) 東京国立博物館
 東京国立博物館へ継続出品
 期間：2017 年 7 月 1 日～2020 年 6 月 30 日
 重要文化財 神奈川県夏島貝塚出土深鉢形土器 計 1 点
 (オ) 岩宿博物館
 岩宿博物館常設展示室（「岩宿時代のムラと社会」・「岩宿文化の地域性」のコーナーに展示）
 借用期間：2017 年 7 月 1 日～2018 年 6 月 30 日
 群馬県武井遺跡出土石器 他 計 330 点
 (カ) 豊橋市美術博物館（文化財センター）
 企画展示「東海大土偶展」
 会期：2017 年 11 月 3 日～12 月 24 日
 愛知県五貫森遺跡出土土器（晩期） 他 計 44 点
 (キ) 北区飛鳥山博物館
 秋期企画展「縄文人の一生—西ヶ原貝塚に生きた人々—」
 会期：2017 年 10 月 24 日～12 月 10 日
 千葉県江原台遺跡出土山形土偶 他 計 2 点
 (ク) 小田原市文化財センター
 小田原市最新出土品展 2017 企画展「千代寺院跡研究の到達点」
 会期：2017 年 11 月 25 日～12 月 10 日
 前場幸治瓦コレクション 千代廃寺「大伴五十戸」銘重
 圈文縁細弁十六葉蓮華文軒丸瓦 計 1 点
 (ケ) 松山市考古館
 平成 29 年度 公開承認施設認定記念 特別展「こだいの
 かつお 2 ～ふんどし君となかまたち」
 会期：2018 年 2 月 3 日～3 月 21 日
 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他 計 2 点
 (コ) 東京国立博物館
 特別展「縄文」
 会期：2018 年 7 月 3 日～9 月 2 日
 千葉県江原台遺跡出土山形土偶 他 計 2 点
 (サ) 兵庫陶芸美術館
 「弥生の美—土器に宿る造形と意匠—」
 会期：2018 年 3 月 10 日～5 月 27 日
 栃木県出流原遺跡出土第 11 号墓壇第 6 例土器 他
 計 6 点
 (シ) 岩手県立博物館
 岩手県立博物館常設展示
 借用期間：2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日
 岩手県雨滝遺跡出土資料 計 29 点
 (ス) 市立市川考古博物館
 市立市川考古博物館 常設展示

借用期間：2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日
 佐賀県多久三年山遺跡出土尖頭器 他 計 80 点

④資料利用一覧
 該当なし

⑤掲載一覧

ア 刑事部門

公事方御定書 他 「NHK 高校講座 日本史 ①『幕政改革』 ②『幕藩体制の危機』」 NHK E テレ

内藤家文書 宝暦九年九月廿五日「萬覚書」 他 大賀郁夫「近世宮崎郡における取立てと「身上り」」(『宮崎公立大学人文学部紀要』第 24 巻第 1 号) 宮崎公立大学

内藤家文書 内藤充真院繁子道中日記「五十三次ねむりの
 合いの手」鮎やな 『ビジュアル江戸三百藩』第 85 号
 ハーパーコリンズ・ジャパン

時世のぼり風 『疾走！幕末・維新 ～新選組結成から戊辰戦争まで～』 江戸文化歴史検定協会

『徳川幕府刑事図譜』白洲の図 入澤宣幸『ビジュアルワ
 イド図解 日本の歴史 智将・軍師 100』西東社

鑑札 株仲間札「平成 29 年度 熊本県オープン模試 第
 3 回」エデュケーションナルネットワーク

時世のぼり風 「2018 センター試験過去問題集 日本史 B」
 書店販売問題集（改訂版）駿台文庫

『徳川幕府刑事図譜』捕縛の図（凶悪犯のはしご捕り）
 他 平田恵子『世界に誇れる日本』JP 生きがい振興財
 団

『徳川幕府刑事図譜』捕縛の図（十手の使用法）「和風総
 本家」テレビ大阪

今川仮名目録 他 「先人たちの底力 知恵泉」『だって仲
 間だもの 戦国武将 今川義元』NHK E テレ

禁中並公家中諸法度 『ビジュアル江戸三百藩』第 91 号
 ハーパーコリンズ・ジャパン

内藤家文書 1-14-60 元禄一六年案詞 『新編 鎌倉震
 災志』冬花社

地方測量之図 五味文彦・鳥海靖『新もういちど読む山川
 日本史』山川出版社

内藤家文書 3-23-11 日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中
 延岡城下屋敷並絵図 延岡城の現在の状況と有馬時代の
 状況を比較する CG を延岡市公式ホームページや市民
 フォーラム等で利用、「城山公園城跡景観等有識者会議」
 からの提言書に添付する資料として利用、延岡城の石垣
 マップを作成し見学用パンフレットとして配布 延岡市
 都市建設部都市計画課

出羽国村山郡山口村文書 乙-X-153 東都来状 他 渡
 辺尚志『江戸・明治 百姓たちの山争い裁判』草思社
 東京入城（東京府京橋之図）「あたらしい「世界と日本」
 史～明治 150 年」<維新政府、変革の序章>第 4 回～「東
 京」が生まれるまで ヨミウリ・オンライン

禁中並公家中諸法度 「皇室スペシャル 天皇陛下と美智
 子さま 退位への道～眞子さまに受け継がれる想い～」
 BS 朝日

- 禁中並公家中諸法度 下山忍・會田康範『もういちど読む
山川日本史史料集』山川出版社
- ニルンベルクの鉄の処女 他『D-LIFE Vol.9』東京
土建一般労働組合どけん共済会
- 生麦之発殺 「政経マネジメント塾」#3 『詮議（対話ロ
ジック）と三角ロジック（総集編）』ホームドラマチャン
ネル・歌謡ポップスチャンネル
- 水戸藩小石川御屋敷御庭之図 奥村俊道、勝又英明「屋根
および造作を中心とした建造物の変遷 小石川後楽園得
仁堂に関する考察 その2」（『日本建築学会計画係論
文集』83巻745号）日本建築学会
- 河内国河内郡上之島村文書 49-書冊-H-2 掟證文之事
大和川違二付西井路用水 他『新版八尾市史 近世史
料編1—古文書で学ぶ江戸時代の八尾—』八尾市
- 『徳川幕府刑事図譜』旧江戸伝馬町牢獄内 昼の図 他
『江戸ビジュアル図鑑』双葉社
- 高札 太政官札 キリシタン禁制（慶応4年）2017年度
後期（高3・高卒生対象）『日本史写真資料集』河合塾
- 『徳川幕府刑事図譜』捕縛の図（打込み・寄棒・鉤縄の使
用法）「にっぽん！歴史鑑定」#118 『江戸のサラリー
マン!? 武士の出世法』BS-TBS
- 今川仮名目録『完全図解 戦国時代』廣濟堂出版
- 歌舞伎座新狂言 伴蔵召捕の場 「東京メトロ沿線だより
外国語版 9月号」東京地下鉄
- 『徳川幕府刑事図譜』引廻しの図『江戸ビジュアル図鑑』
双葉社
- 山口村絵図 天童市立図書館歴史講座「はじめて知る天童
の歴史講座」資料
- 『徳川幕府刑事図譜』鋸引仕置の図「ニノさん」日本テ
レビ
- 口上之覚 生類憐み令「くりむクイズミラクル9」テ
レビ朝日
- 時世のぼり風「青パック 市販版」書店販売問題集 駿
台文庫
- 今川仮名目録 他「先人たちの底力 知恵泉」『だって仲
間だもの 戦国武将 今川義元』（再放送）NHK E
テレ
- 内藤家文書 内藤充真院繁子道中記「海陸返り咲こと葉の
手拍子」青物横丁商店街地域歴史案内板
- 伊勢国度会郡田曾浦文書 安永七年 御用留 他 糸川風
太「紀州藩・鳥羽藩領における幕府広域支配実現の特質
—近世中後期の公儀浦触廻達を素材として」（『ヒストリ
ア』264号）大阪歴史学会
- 御成敗式目『大人の学び直し 日本史講座テキスト』2
ユーキャン
- 正保四年九月 陸奥国棚倉・岩城・中村郷村高辻帳 他
南部孝之「資料紹介・相馬市歴史資料収蔵館所蔵『相馬
三郡村高并一里塚図』の成立年について」（『相馬郷土
33』）相馬郷土研究会
- 内藤家文書 1-22-726 小良浜出入書類 日本放送協会
学園生涯学習通信講座「古文書を読む」主催スクーリン
グ講義資料
- 桜田門外の変 他『西郷隆盛大全』廣濟堂出版
- 生麦之発殺 他「幕末・維新」歴史研究会『真説 西郷
隆盛の生涯』宝島社
- 今川仮名目録 第23条 DVD/BD「大河ドラマ おんな
城主直虎 完全版」第貳集 日本放送協会
- 高札 太政官札 キリシタン禁制（慶応4年）e-learning
システム内映像コンテンツとして配信
- 『徳川幕府刑事図譜』遠島出船の図「フットボールア
ワーの離島へ行こう！～伊豆大島」フジテレビ
- 鑑札 株仲間札『別冊歴史人 完全保存版 徳川15代将
軍最強ランキング』ベストセラーズ
- 時世のぼり風「第12回江戸文化歴史検定 1級問題用紙」
江戸文化歴史検定協会
- ニルンベルクの鉄の処女 月刊「うえの」10月号 上
野のれん会
- 今川仮名目録『NHK 新歴史秘話ヒストリア 歴史にか
くされた知られざる物語』1 乱世を生きた戦国武将
金の星社
- 常設展示室 刑事部門 歴史教室「千葉・歴史アドバイス
研究会 第1話 鬼平犯科帳「長谷川平蔵」」配布資料
- 『徳川幕府刑事図譜』白洲の図『EPTA』vol.84「東京島」
特集 ヒノキ新葉
- 山城国紀伊郡下鳥羽村大沢家文書 4-書状-G-215 他
竹中友里代「近世鳥羽街道における牛車の活動」（『京都
府立大学学術報告 人文』第69号）京都府立大学
- 内藤家文書 1-28-22 祭礼並祈祷代参諸遷宮神事能取喫
他 奈良県立万葉文化館特別展「日本文化の源流—い
まに続く芸能」パネル展示
- 名和コレクション 京町奉行所与力銀着せ十手 他 企画
展「時代小説と深川」・特別展「時代小説の世界」パネ
ル展示・チラシ等配布物
- 武家諸法度「必殺仕事人 DVD コレクション」第70号
デアゴスティーニ・ジャパン
- 今川仮名目録追加 定 冒頭 愛知県史編さん委員会『愛
知県史 通史編3 中世2・織豊』愛知県
- 今川仮名目録『歴史人』1月号 ベストセラーズ
- 薩州屋敷焼撃之図（慶応3年新徴組）『日本史 パノラマ
大地図帳』宝島社
- 農兵一段備配陣絵図 樋口雄彦『幕末の農兵』現代書館
- 内藤家文書 3-23-10-34-11 奥州岩城平之城絵図 他
『夕刊いわき民報』所収「磐城平城」いわき民報社
- 内藤家文書 1-22-726 (1) 小良浜出入之覚書（部分）
他『古文書通信』第115号 日本放送協会学園
- 生麦之発殺『別冊歴史人 SPECIAL 西郷隆盛と幕末維
新の争乱』ベストセラーズ
- 地方測量之図「NHK高校講座 日本史」第99回『伊
能忠敬の測量方法』学習塾「英進館」での小学校社会
科の教材として提供
- 『徳川幕府刑事図譜』白洲の図 他「タイムスクープハ
ンタースペシャル 幕末決死行！～江戸牢獄・限界長屋
の実態～」NHK ※スターフライヤー機内にて上映
- 公事方御定書 他 動画学習教材「douga pocket ver. 中

- 学社会」東京書籍
- 鑑札 株仲間札 『大人の学び直し 日本史講座テキスト』
7 ユーキャン
- 地方測量之図 2018 年度版『社会 4 年デイリーサピックス 440-08』日本入試センター
- ニルンベルクの鉄の処女 「よーいドン!」 関西テレビ
- 御成敗式目 『歴史 REAL 足利将軍 15 代』 洋泉社
- 『徳川幕府刑事図譜』 鋸引仕置の図 加来耕三『1868—明治が始まった年への旅』 時事通信出版局
- 名和コレクション 鎖鎌 (石見守直次作) ネットミュージアム兵庫文学館 企画展示「宮本武蔵 力と美」
- 内藤家文書 3-23-11 日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 他 『延岡城跡 (第 30 次) 発掘調査概要報告書』 延岡市教育委員会
- 『明治大学博物館研究報告』 22 号所収「内藤藩の大坂屋敷」 (日比佳代子) 科学研究費基盤研究 (B) 『幕末期における大坂・大坂城の軍事的役割と畿内・近国藩』 報告書『徳川幕府刑事図譜』 御様の図 他 「TOKYO ディープ! #99 南千住 ~未来都市南千住 知られざる歴史~」 NHK BS プレミアム
- 御仕置例類集 「先人たちの底力 知恵泉」 NHK E テレ
- 地方測量之図 『台東区歴史・文化テキスト』 第三版 台東区教育委員会
- 『徳川幕府刑事図譜』 拷問の図 (石抱責もしくは算盤責) 他 『神田・神保町・御茶ノ水本』 榎出版社
- 地方測量之図 他 NHK デジタル教材「NHK for school」
- 出羽国村山郡山口村文書 20-書冊-S-22 法幢寺領百姓掛合一件留 他 松本和明「出羽国村山郡山口村における文久期山論と法幢寺一寺領の問題を中心に一」 (『人文論究』 第 68 巻第 1 号) 関西学院大学 人文学会
- 『徳川幕府刑事図譜』 切腹の図 別冊 Discover Japan CULTURE 『江戸から明治維新に学ぶ武士道』 榎出版社
- 板倉家文書 「亀山市史」 ウェブ版 亀山市
- 公事方御定書 他 「NHK 高校講座 日本史 ①『幕政改革』 ②『幕藩体制の危機』」 NHK E テレ
- 内藤家文書 1-6-194 慶応三年万覚書 他 『宮崎公立大学人文学部紀要』 第 25 巻第 1 号 宮崎公立大学
- 『徳川幕府刑事図譜』 敲仕置の図 「先人たちの底力 知恵泉」 NHK E テレ
- 薩州屋敷焼撃之図 龍郷町文化財展示室特別企画「西郷隆盛と菊次郎展」 図録 龍郷町教育委員会
- イ 考古部門
- 群馬県岩宿遺跡発掘風景 他 文化財保存全国協議会編著 『文化財保存 70 年の歴史 明日への文化遺産』 新泉社
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 『2017 年度 考える力・プラス 中学受験講座 5 年生 中学入試授業テキスト 8 月号 共通』 ベネッセコーポレーション
- 岩手県雨滝遺跡出土石鏃凸形 『2018 マーク式総合問題集 日本史 B』 河合出版
- 千葉県堀之内貝塚出土晩期鉢形土器 (安行 3d 式) 譽田亜紀子『知られざる縄文ライフ』 (電子書籍版) 誠文堂
- 新光社
- 栃木県篠山貝塚出土縄文式深鉢形土器 『AppliS 中 1 5 教科 complete book』 学研プラス
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2017 年度 メインレッスン 社会 8 月号 中 1 共通 U8 古代までの日本 1, 2』 (デジタル教材) ベネッセコーポレーション
- 群馬県岩宿遺跡出土刃部磨製石斧 他 中学受験コース 『エブリスタディ アドバンス』 5 年 社会 6 月号 (デジタル教材) Z 会
- 秋田県大湯遺跡出土後期注口付土器 他 『2017 (平成 29) 年度入学試験過去問題集』 長崎国際大学
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2017 年度 進研ゼミ 中高一貫講座 中 1 Challenge 英数国理社』 8 月号 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2017 年度 夏の特別 Challenge 中 1』 8 月号 ベネッセコーポレーション
- 群馬県岩宿遺跡発掘風景 他 「東京サイト」 テレビ朝日
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『H30 年 入試対策かんぺき最新問題集 社会』 (塾用問題集) 学書
- 群馬県岩宿遺跡発掘風景 荻谷千明「史跡岩宿遺跡の整備と活用」 『月刊文化財』 7 月号 第一法規
- 栃木県篠山貝塚出土縄文式深鉢形土器 『AppliS 中 3 5 教科 complete book』 学研プラス
- 群馬県岩宿遺跡 A 地点の発掘風景 (1949 年本調査) 他 『遠い昔の村山市 - 旧石器から古墳時代 -』 村山市教育委員会
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2017 年度 中二 5 教科 要点まとめ事典』 8 月号 ベネッセコーポレーション
- 北海道置戸安住遺跡出土石器の実測図 他 大塚宣明『旧石器考古学』 旧石器文化談話会
- 群馬県岩宿遺跡発掘風景 『群馬県立歴史博物館常設展示図録』 群馬県立歴史博物館
- 千葉県江原台遺跡出土山形土偶 「堂本剛の僕が親になる日まで」 『ひよこクラブ』 ベネッセコーポレーション
- ガROUND 撮影写真 (野々瀬古墳群の 1 基の石室) 平成 29 年度企画展「朝倉を伝える」 (パネル展示) 今治市朝倉ふるさと美術古墳館
- 神奈川県ニツ池遺跡出土壺形土器 『8 月ゼミ 小 6 社会』 塾用プリント ティエラコム
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2017 年度 ニガテシャットアウト 社会事典 11 月号 共通タイプ』 ベネッセコーポレーション
- 静岡県登呂遺跡発掘風景 (昭和 22 年) 企画展「登呂発掘と静岡市の近現代」 (パネル展示) 静岡市立登呂博物館
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『改訂版 チェック & 演習 日本史 B』 数研出版
- 群馬県岩宿遺跡出土石器 (複製) 『群馬県立歴史博物館 常設展示図鑑』 群馬県立歴史博物館
- 愛知県五貫森貝塚出土打製石器 他 『II 期ゼミ 中 1 社会』 塾用問題集 学書
- 埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 『デジタル指導書 ウィングウインター』 (デジタル教材) 好学出版

- 群馬県岩宿遺跡出土岩宿 I 石器文化の石器類 『大人の学び直し日本史講座テキスト』1 ユーキャン
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 『2017 年度 考える力・プラス中学受験講座 6 年生 中学入試合格テキスト』1 月号 ベネッセコーポレーション
- 神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 他 『2017 年度 立命館大学入試プレステージ日本史問題』 河合塾
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 佐鳴予備校「Perfect!」愛知県版(塾用問題集) 学書
- 神奈川県夏島貝塚出土尖底深鉢形土器 『ともに学ぶ人間の歴史』(文部科学省検定教科書 中学社会歴史) 学び舎
- 群馬県武井遺跡出土尖頭器 『合格へのパスポート 中3 社会』 学研プラス
- 群馬県岩宿遺跡出土石器 『夢 SEED 歴史』 教育開発出版
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他 『日経おとなの OFF』 11 月号 日経 BP 社
- 愛知県大蚊里遺跡出土土偶 他 企画展示「東海大土偶展」(パネル展示・パンフレット・解説シート) 豊橋市教育委員会
- 千葉県江原台遺跡出土山形土偶 ウィークリーブック『ニッポンの国宝 100』第 9 号(印刷媒体出版・電子出版) 小学館
- 群馬県武井遺跡出土尖頭器 「中学ウインパス社会 全」(印刷媒体出版・電子出版) 文理
- 栃木県出流原遺跡出土第 11 号墓壇第 6 例土器 他 『弥生の美—土器に宿る造形と意匠—』展図録 兵庫陶芸美術館
- 前場幸治瓦コレクション 千代庵寺「大伴五十戸」銘重圏文縁細弁十六葉蓮華文軒丸瓦 他 小田原市最新出土品展 2017 企画展「千代寺院跡研究の到達点」(パネル展示・講演会資料) 小田原市教育委員会
- 群馬県岩宿遺跡出土岩宿 I 石器文化の石器 「ピバ! アミーゴ」群馬東部よみうり新聞社
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他 『Ⅲ期ゼミ 中1 社会』塾用問題集 ティエラコム
- 栃木県篠山貝塚出土縄文土器 『Ⅲ期ゼミ 小6 理科/社会』塾用問題集 ティエラコム
- 群馬県岩宿遺跡発掘風景 「出発! ローカル線聞きこみ発見旅」BS ジャパン
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『D-ファイナル』塾用問題集 学書
- 北海道白滝服部台遺跡出土尖頭器 他 高橋朝彦ほか『山川 デジタル指導書』(指導者用教材, DVD-ROM に収録) 山川出版社
- 神奈川県夏島貝塚貝層 他 平成 29 年度特別展「山野貝塚のヒミツを探る」(パネル展示・図録) 袖ヶ浦市郷土博物館
- 岩手県雨滝遺跡出土石鏃凹形 他 2017 年度全統マーク高 2 模試問題 地理歴史「日本史 B」河合塾
- 岩手県雨滝遺跡出土石鏃凹形 他 2017 年度全統マーク高 2 模試問題 地理歴史「日本史 B」(河合塾ホームページ「全統模試分析システム Kei-Navi」に掲載, 掲載期間: 2018 年 4 月より 1 年間) 河合塾
- 岩手県雨滝遺跡出土石鏃凹形 他 2017 年度全統マーク高 2 模試問題 地理歴史「日本史 B」(河合塾ホームページ「全統模試分析システム Kei-Navi」に掲載, 掲載期間: 2019 年 4 月より 1 年間) 河合塾
- 岩手県雨滝遺跡出土石鏃凹形 他 2017 年度全統マーク高 2 模試問題 地理歴史「日本史 B」(河合塾ホームページ「全統模試分析システム Kei-Navi」に掲載, 掲載期間: 2020 年 4 月より 1 年間) 河合塾
- 坂本万七〈法隆寺五重塔北面侍者像〉(北-21) ウィークリーブック『ニッポンの国宝 100』第 27 号(印刷媒体出版・電子出版) 小学館
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2018 年度 Challenge 社会』4 月号 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2018 年度 メインレッスン社会』4 月号(デジタル教材) ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2018 年度 中1 記述力 UP ドリル 社会 VOL.1』4 月号 他 ベネッセコーポレーション
- 京都府深草遺跡出土石包丁 『2018 年度 Challenge 社会』4 月号 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2018 年度 中2 5 教科パーフェクト事典』ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2018 年度 中2 5 教科パーフェクト事典プラス』ベネッセコーポレーション
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他 公開承認施設認定記念 特別展「こだいのかお 2〜ふんどう君となかまたち」(ポスター・展示解説書等印刷物・ホームページ) 松山市考古館
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2018 年度 定期テスト暗記 BOOK』5 月号 他 ベネッセコーポレーション
- 岩手県雨滝遺跡出土磨製石斧 他 『2018 年度 中学(中1 生対象) 歴史 I』河合塾
- 神奈川県夏島貝塚貝層断面 国立歴史民俗博物館 総合展示第 1 展示室(原始・古代)「多様な縄文列島」のコーナーにパネル等を展示
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 文部科学省検定教科書『新選日本史 B』東京書籍
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『新選日本史 B ワークノート』東京書籍
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『新選日本史 B 教師用指導資料』(付属 DVD) 東京書籍
- 愛知県五貫森遺跡出土磨製石器 『さなる式 歴史 I』(塾用問題集) 学書
- 福岡県板付遺跡出土素文壺形土器 他 辻惟雄『日本美術の歴史』英語版 History of Art in Japan 東京大学出版会
- ガウランド撮影 奈良県四条塚山古墳(綏靖天皇陵) 朝日新聞奈良県版 今尾文昭「天皇陵古墳を歩く」朝日

新聞社
群馬県岩宿遺跡出土石器 『ena パースペクティブ』 教育
 開発出版
青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 2018年度前期(高3・
 高卒生対象)『日本史写真資料集』 河合塾
群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 高山宗東, 佐藤ヒロシ『た
 のしく学べる まんが日本史』上巻 学校図書
福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2018年度 定期テスト暗
 記BOOK 特別号』5月号 ベネッセコーポレーション
栃木県篠山貝塚出土縄文式深鉢形土器 『おはなし推理ド
 リル 歴史事件ファイル 小学4～6年』学研プラス
群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 2018年度1学期(高2
 生対象)『高2日本史』 他 河合塾
栃木県出流原遺跡の土器棺再葬墓 熊谷市教育委員会編
 『熊谷市史 通史編・上巻(原始・古代・中世)』熊谷市
京都府深草遺跡出土石包丁 『I期ゼミ 中1社会』塾用
 問題集 ティエラコム
福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2018年度 入試によく出
 る基礎 社会』7月号 ベネッセコーポレーション
常設展示風景(中国・周口店遺跡出土石器) 他 松浦明
 博「歴史教育における黎明期の文化(旧石器文化等)研
 究の意義とりわけ日本列島における世界最古の事例とそ
 の教育的意義」(『大月短大論集』第48号)「世界史の中
 の「縄文文明」～その可能性と教育的意義に関する考察
 ～」(『大月短大論集』第49号) 大月短期大学
群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 『2018年度 考える力・プ
 ラス中学受験講座 5年生 中学入試授業テキスト』8
 月号 ベネッセコーポレーション
群馬県矢出川遺跡発掘調査写真 『氷河期からのたよりー
 野辺山高原旧石器ガイドブッカー』南牧村教育委員会
群馬県岩宿遺跡出土石斧 大学入試シリーズ『関西大学
 (法・経済・商・政策創造・総合情報学部)』2019年版
 教学社
岩手県雨滝遺跡出土石鏃凹形 他 2018年度「第1回全
 統マーク模試問題」地理歴史B(日本史B) 河合塾
岩手県雨滝遺跡出土石鏃凹形 他 2018年度「第1回全
 統マーク模試問題」地理歴史B(日本史B) 河合塾(河
 合塾ホームページ「全統模試分析システム Kei-Navi」
 に掲載)
千葉県江原台遺跡出土山形土偶(前面・後面) 井口直司『縄
 文土器・土偶(仮)』(印刷媒体出版・電子出版)
 KADOKAWA

(5) 図書

①蔵書数

図書	全所蔵冊数	(冊)	120,746
	和	(冊)	90,535
	洋	(冊)	1,217
	製本雑誌	(冊)	28,994

雑誌	全所蔵冊数	(タイトル)	2,987
	和	(タイトル)	2,934
	洋	(タイトル)	53

②購入・寄贈数

ア 図書受入数

総受入冊数		(冊)	2,332
図書受入冊数 ※製本雑誌を含む	購入	和	(冊) 43
		洋	(冊) 0
	寄贈	和	(冊) 2,283
		洋	(冊) 6

イ 雑誌継続タイトル数

総受入種類数		(タイトル)	368
雑誌受入種類数	和	(タイトル)	365
	洋	(タイトル)	3

※2015年度統計より、図書館蔵書システムからの出力に
 よる数値を使用。

(6) 茨城県三味塚古墳出土資料の重要文化財指定

茨城県行方市に所在する三味塚古墳(5世紀末～6世紀
 初頭, 87mの前方後円墳)は、1955年に茨城県教育委員
 会によって発掘調査され、未盗掘の埋葬施設から馬形の装
 飾をあしらった金銅冠をはじめとする多量の副葬品が出土
 し、茨城県を代表する古墳として全国的にも著名である。
 当時の茨城県の要請により、明治大学は後藤守一教授(当
 時)、大塚初重名誉教授(当時は助手)が発掘調査に参加し、
 1960年に刊行された発掘調査報告書の製作も含め、中心
 的な役割を果たした。

主要な出土資料は茨城県立歴史館に収蔵され、茨城県指
 定文化財となっていたが、冑や短甲をはじめとする武具類
 は明治大学で保管され、明治大学博物館で収蔵されてきた。
 このたび、資料の学術的価値が認められ、茨城県立歴史館
 収蔵資料とともに、当館で収蔵していた冑・短甲・小札甲
 の小札計約2,000点も含めた一括資料について、2018年3
 月9日に開催された国の文化審議会において、国指定重要
 文化財(美術工芸品)とする答申が出されることとなった。
 正式な指定は2018年度中に行われる。

指定にあたり文化庁より所有者の一本化が求められたた
 め、当館で収蔵していた資料について2018年2月8日付
 で本学理事長名の覚書を交わし、発掘調査の主体者である
 茨城県へ所有権を譲渡した。なお、所有権は移譲したが茨
 城県よりこれまでの当館の実績を鑑み、引き続き保管と活
 用の要望が寄せられたため、覚書と同日付で寄託契約書を
 締結し重要文化財指定後も当館で当該資料について保管す
 ることとなった。寄託契約は1年更新である。

重要文化財指定後は、保存処理・修復費用は茨城県の負
 担(国庫が半額負担)となる。現在、常設展示室で展示中
 の冑・短甲については、従来通り展示に供する予定である。

V 統計・一覧・資料

1 入館データ

(1) 入館状況

①開館日数・時間

ア 休館日 2017年8月10日～16日／8月20日臨時休館／12月26日～2018年1月7日
※2018年1月6日に図書室のみ開室

イ 開館時間 10時～17時

ウ 月別開館日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	30	31	30	31	23	30	31	30	25	24	28	31	344

エ 月別入館・利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
常設展示室	4,127	4,652	5,060	5,907	6,035	4,651	5,419	8,216	4,631	4,208	4,724	5,406	63,036
特別展示室	1,474	1,765	2,590	4,954	4,301	2,641	1,559	900	693	3,403	2,409	2,456	29,145
図書室	254	472	559	531	257	410	554	634	547	256	172	205	4,851
教室等利用	253	276	277	323	87	224	323	248	207	318	296	328	3,160
計	6,108	7,165	8,486	11,715	10,680	7,926	7,855	9,998	6,078	8,185	7,601	8,395	100,192

《参考》年度別入館・利用者数

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2004～2017
常設展示室	49,604	46,059	42,333	42,632	43,331	63,036	606,187
特別展示室	20,874	21,057	16,937	18,755	23,409	29,145	256,736
図書室	5,973	5,621	5,476	5,321	5,316	4,851	71,372
教室等利用	1,637	2,254	3,203	3,334	3,426	3,160	24,071
計	78,088	74,991	67,949	70,042	75,482	100,192	958,366

②特別展入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
鳥取の工芸文化 手仕事の近世、近代、そして現代	2017年10月19日～12月17日	60日間	2,137名

③主催・共催展・その他の展覧会入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
新収蔵資料展 20世紀前期の陶磁資料群 鍋島焼の近代／柿右衛門様式の復興／その他	2017年3月1日～4月9日	40日間	1,952名
新収蔵・収蔵資料展 2017	2017年4月15日～5月28日	44日間	2,751名
明治大学図書館所蔵 エジプト学貴重書展	2017年6月3日～6月27日	25日間	2,590名
進化する不可能立体錯視 ～真実がわかっていても逃れられない不条理の世界～	2017年7月4日～8月20日 (※8月10～16・20日休館)	40日間	9,255名
十手と錦絵―描かれた捕者の世界	2017年9月6日～10月10日	35日間	3,725名
中国「革命宣伝画」展	2018年1月10日～1月30日	21日間	3,403名
力の誇示・馬形埴輪の世界	2018年2月3日～3月4日	30日間	2,718名
茨城県大日塚古墳の埴輪―最新の発掘調査成果から―			
アンコール展示 十手と錦絵―描かれた捕者の世界	2018年3月10日～4月8日	30日間	2,856名

(2) 団体見学

①月別集計一覧

ア 学校団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	7	5	9	6	3	4	11	6	10	12	11	3	87
人数	318	150	334	174	37	125	511	156	233	167	188	43	2,436

イ 一般団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	4	5	4	7	4	5	15	13	12	4	9	7	89
人数	123	178	120	305	57	186	351	604	247	85	266	108	2,630

《参考》団体見学数の推移

学校団体	2012	2013	2014	2015	2016	一般団体	2012	2013	2014	2015	2016
団体数	51	50	47	58	58	団体数	61	54	54	65	60
人数	1,257	1,352	1,310	1,852	1,848	人数	1,615	1,094	1,448	1,541	1,387

②団体一覧

2017年

4月

楽笑会, 明治大学国際連携事務室, 岩手県奥州市立江刺第一中学校 3年4組, 福島県福島市立福島第三中学校 3年生, 弥栄会, 春秋の会, クラーク記念国際高等学校 秋葉原ITキャンパス, 成城大学法学部刑事訴訟法ゼミ, 村山市立榎岡中学校 3年生, 東京都立両国高等学校附属中学校 3年生, 学生プロジェクト

5月

東京言語学院, 東京都立鷺宮高等学校 2年生, TACハイキング会, 江東シルバー共助会, 魚津市立東部中学校, まほろば会, 早稲田大学高等学院 3年L組, むさしの歩こう会, 荒川シルバー大学社会科見学教室, 明治大学文学部「福祉と社会教育」

6月

品川エトワール女子高等学校 2年生, 千葉県栄町立栄中学校 2年生, 豊橋市立吉田方中学校 3年生, 水戸葵陵高等学校, 横浜市立上永谷中学校 2年3組 3班, 愛知県知多郡美浜町立野間中学校, 東葛川柳会, 18元気会, ウォーキングサークル宙, 岡山県立岡山城東高等学校, 神奈川大学附属高等学校 2年生, 埼玉県立越谷西高等学校 PTA, 青森県立三本木高等学校附属中学校 3年生

7月

慶應義塾大学 法科大学院, 文京学院大学女子高等学校 1・2年生, 星野高等学校 2年生, 日本不動産管理株式会社, NPO法人 富士見市民大学, 福島県立磐城高等学校 史学部, クラブツーリズム「東京の新発見旅へ 千代田区編」, 明治大学法学部 Law in Japan Program, 荒川健康クラブ, 追われた人々から見た日本史勉強会, かえつ有明中・高等学校, 東京都歴史教育研究会, 株式会社ジェイアール総研エージェント

8月

一般社団法人日本セカンドライフ協会, 葛飾区立青戸中学校 歴史芸芸部, 福島県立磐城高等学校 図書委員会, プラザ会, 悠歩会, 横浜市立高等学校 社会科研究会, 昭和薬科大学附属高等学校

9月

長野県上田高等学校, 曹洞宗教師連合会, 街歩き達人, 防衛省陸上幕僚監部 法務官, 明治学院中学校, 山梨学院大学法学部実川ゼミ, 板橋グリーンカレッジOB会, 足立区立第九中学校, 史誠会

10月

東京都立江北高等学校 1年生, 長野県岡谷東高等学校, 株式会社NHK文化センター光が丘・横浜・水戸教室, 千葉大学教育学部附属中学校, 株式会社NHK文化センター光が丘・さいたま・川越教室, 明治大学校友会三鷹地域支部, 市ヶ谷商業高等学校クラス会, 東久留米市民大学, 千葉県立船橋東高等学校 PTA, 鳥取県立鳥取商業高等学校 2年生, 埼玉県いしがき大学所沢校友会, 長野県松本蟻ヶ崎高等学校 2年生, 広島県立福山誠之館高等学校 2年生, 化学技術研究会, 群馬県立藤岡中央高等学校 PTA, 東洋大学文学部史学科 内藤ゼミ, 本庄東高等学校熊谷支部保護者会, ISEHARA おもてなし隊, 長野県松本美須ヶ丘高等学校 2年生, 茜会, 歴史散策会, 皇居一周 江戸城堀めぐり, 埼玉県立川口高等学校 1年生, 和洋九段女子高等学校, ふれあいサロン八幡, 成蹊中学校

11月

麴町学園女子高等学校, 千葉県立国府台高等学校 PTA, 曹洞宗埼玉県第二宗務所保護司会, 武蔵野音楽大学生涯学習授業, 旅人企画, 株式会社NHK文化センター現地講座「旬な旅 味な旅」, 鳥取城北高等学校 2年生, 立教新座中学校 1年生, 松戸市立博物館友の会, 生涯学習ボランティアセンター, 茨城県下妻第二高等学校 1年生, 六実連合町会, 紫紺40会, クラブツーリズム株式会社エコスタッフ, 船橋市飛ノ台史跡公園博物館, 明治大学千葉県東部地区父母会, 炉端の会(水曜班), 駒馬台コミュニティセンター活動推進協議会, 練馬区立貫井中学校

12月

光が丘第三中学校, 埼玉県立小川高等学校 1年生, 我孫子市歩こう会, 中野区立第五中学校, 日本ウェルネススポーツ大学タイケン学園東京神田神保町校, 群馬県立高崎商業高等学校 1年生, 江戸を歩く, 江東区砂町文化センター, 藤沢市老人福祉センター歴史散策サークル, 大泉学園歩こう会, 山口県立下関南高等学校, 群馬県立吉井高等学校, 船橋マスター学院, 埼玉県立浦和第一女子高等学校, 江東区立深川第五中学校, TWO WAY クラブ, 足立歴史サークル, 市立市川考古博物館ボランティア, 江戸川区史話会, 共立日語学院, 昭和第一高等学校, 多摩地区歩こう会

2018年**1月**

青山学院高等部 3年 世界史aクラス, 佐賀県立佐賀西高等学校, お茶の水女子大学 考古学通論Ⅱ, いきがい大学 春日部史跡めぐりクラブ22, でんでんむしの会, 福岡県立小倉南高等学校, 取手健康の集い, 桐朋女子高等学校, 日野市立七生中学校(特別支援学級), 目黒区立大鳥中学校, 京都市立西京高等学校附属中学校, 金曜会, 駿河台大学法学部 竹内ゼミ, 東村山市立東村山第二中学校, 福岡県立福岡講倫館高等学校

2月

東村山市立東村山第七中学校, 昭島市立清泉中学校, 大田区立安方中学校 3年生, 足立区立千寿青葉中学校 1年生, 藤村女子高等学校, さいたま市シニアユニバーシティ大宮校12期校友会, 渋谷区自然と文化散歩会, 中国湖南省 都内の大学めぐり, 世田谷区立千歳中学校, 荒川区立原中学校, 江戸川区立小岩第一中学校 1年生, さいたま市立大宮西中学校, 海上自衛隊 中央システム通信隊, テクテク倶楽部, 杉並区歩っとおたのしみ会, 日本セカンドライフ協会, 都内火曜日の会, マスター学院, 法政大学高等学校, 成城高等学校

3月

吉川市立南中学校, 葛飾区立中川中学校 1年生, Sun-A 国際学院 大江戸校, 宇都宮ハイキングクラブ, ところざわ倶楽部 野老澤の歴史をたのしみ会, 龍谷大学法学部, 尚史会, 小江戸会, 八千代ふれあい大学19期OB会, やしお市民大学OB健康ウォーキング部会

(3) 視察・研修受入

①受入団体数・参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	—	—	1	1	—	1	1	1	—	—	—	—	5
人数	—	—	2	2	—	25	2	2	—	—	—	—	33

②団体名一覧

田園調布学園中等部職場訪問(6月2日), 東京都立大泉高等学校附属中学校職場体験(7月11~13日), 南山大学見学実習(9月14日), 東京都立桜修館中等教育学校職場体験(10月26~27日), 東京都立白鷗高等学校附属中学校職場体験(11月7~9日)

(4) 図書閲覧サービス

①図書開室時間 月~土曜日 10:00~16:30

②閲覧者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部生													
大学院生	134	293	377	325	146	250	365	405	327	131	43	64	2,860
明大教職員	6	6	4	8	5	7	8	2	7	11	9	8	81
友の会	30	38	50	54	23	30	47	32	28	26	32	34	424
リバティアカデミー会員	5	7	14	10	3	3	0	3	8	3	5	5	66
聴講生	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	4
校友	16	24	22	30	16	16	20	10	16	12	17	17	216
他大学学生	16	59	34	48	39	57	76	133	110	36	23	33	664
一般	42	35	53	46	17	37	30	44	41	32	34	33	444
明大その他	4	10	5	8	8	10	7	5	10	5	9	11	92
合計	254	472	559	531	257	410	554	634	547	256	172	205	4,851
開室日数	24	24	26	26	18	22	25	23	21	20	23	26	278
1日平均(人)	10.6	19.7	21.5	20.4	14.3	18.6	22.2	27.6	26.0	12.8	7.5	7.9	17.4

2 組織・構成

(1) 博物館構成員

①館長・副館長

任期：2016年4月1日～2018年3月31日

役職	氏名	所属	専門
館長	村上一博	法学部教授	基礎法学・ 日本近代法史
副館長	李英美	商学部教授	韓日法制史

②専任職員

役職	氏名	担当	専門
学術・社会 連携部長	菊池亮一		
博物館事務長	小澤芳明		
学芸員	外山徹	商品・ 刑事部門	博物館学/ 地域文化論
学芸員	島田和高	考古部門	旧石器時代
学芸員	日比佳代子	刑事部門	日本近世史
学芸員	忽那敬三	考古部門	弥生・古墳 時代

③非常勤職員

	氏名	担当
派遣職員	岡本依子 ※2018年1月～	広報・庶務担当
短期嘱託職員	織田潤	庶務部門担当
短期嘱託職員	川崎舞 ※～2017年4月	庶務(図書)部門担当
短期嘱託職員	久保田惟子 ※2017年5月～	
短期嘱託職員	高野美佳	刑事部門担当
短期嘱託職員	海塚有理 ※～2017年4月	商品部門担当
短期嘱託職員	林田真由子 ※2017年5月～	
短期嘱託職員	海沼真澄	考古部門担当
短期嘱託職員	岡地智子	考古部門担当

(2) 博物館協議会

①運営委員会

任期：2017年4月1日～2019年3月31日

委員長	村上一博	館長/法学部教授
副委員長	李英美	副館長/商学部教授
	小林史明	法学部専任講師
	高橋昭夫	商学部教授
	矢島國雄	文学部教授
	阿部芳郎	文学部教授
	落合弘樹	文学部教授
	野尻泰弘	文学部准教授
	若狭徹	文学部准教授

	本多貴之	理工学部准教授
	薩摩秀登	経営学部教授
	須田努	情報コミュニケーション学部教授
	菊池亮一	学術・社会連携部長
	外山徹	博物館学芸員
	島田和高	博物館学芸員
	日比佳代子	博物館学芸員
	忽那敬三	博物館学芸員

②資料評価分科会

任期：2017年6月23日～2019年3月31日

座長	野尻泰弘	文学部准教授
	高橋昭夫	商学部教授
	若狭徹	文学部准教授
	薩摩秀登	経営学部教授

(3) 研究調査員

任期：2017年4月1日～2018年3月31日

菊池一夫	商学部教授(商業経営論)
福田康典	商学部教授(市場調査論)
上原義子	商学部兼任講師 高千穂大学商学部准教授
牛米努	文学部兼任講師 税務大学校租税史料室
金子智	株式会社乃村工藝社
山路直充	市川考古博物館

(4) 各作業部会

①博物館・大学院商学研究科・商学部連携

「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会

◎は博物館運営委員

座長	高橋昭夫	運営委員・商学部教授 (商品学)	◎
	菊池一夫	商学部教授(商業経営論)	
	福田康典	商学部教授(市場調査論)	
	上原義子	商学部兼任講師 高千穂大学商学部准教授	
	外山徹	博物館学芸員	

(5) 明治大学博物館友の会 2017 年度役員

相談役	村上一博	李英美	
顧問	大塚初重	倉田公裕	熊野正也
	杉原重夫		
会長	鈴木弘		
副会長	野口淳	平井孝雄	
理事	巖俊夫 (総務)	橋本秀夫 (行事)	村井孝行 (会計)
	青鹿良市 (広報)	新井正子 (行事)	

運営委員 (総務)	大島 淑子	宮城 正	
〃(会計)	古沢 芳枝		
〃(行事)	松村 祐安	本橋 清美	桐生 邦子
〃(広報)	望月 桂一郎	林 信雄	
〃 (図書室管 理員副代 表)	新井 正子		
〃 (展示解説 員副代表)	渡辺 やす子		
図書室管 理員代表	木戸 孝義		
展示解説 員代表	林 信雄		
監事	支倉 紀代美	松本 慶三	
分科会	古文書を読む会		高橋 幸子
	平成内藤家文書研究会		粕谷 宏幸
	工芸の会		平井 孝雄
	旧石器・縄文文化研究会		長野 陽次
	弥生文化研究会		磯辺 隆信
	古文書の基礎を学ぶ会		石井 吉彦
	東アジアの中の古代日本研 究会		山本 廣一
	前方後円墳研究会		磯辺 隆信
	「倭国から大和」を学ぶ会		村井 孝行
	古代東北アジアと日本研究会		遠藤 典夫

(6) 各種会議開催日

①博物館運営委員会

2017年6月23日・10月20日・2018年3月23日

②資料評価分科会

2017年7月21日・12月8日

③博物館・友の会連絡会議

2017年5月26日・9月22日・11月24日・
2018年2月23日

3 予算・決算

(1) 2017年度事業費予算・決算

予算

科目	目的 博物館費	基金事業費	特定課題推進費				合計
			特別展	大学博物館 交流事業	山陰地方 伝統工芸	ICT ミュージアム	
兼務職員人件費	1,038,000	0	0	0	0	0	1,038,000
福利費	14,000	0	0	0	0	0	14,000
修繕費	633,000	0	0	0	0	0	633,000
旅費交通費	921,000	10,000	610,000	196,000	483,000	0	2,210,000
業務委託費	744,000	0	1,507,000	0	21,000	1,325,000	3,527,000
保険料	221,000	0	10,000	0	0	0	231,000
準備品	622,000	0	0	0	0	0	622,000
その他の消耗品費	1,440,000	10,000	100,000	5,000	0	0	1,545,000
印刷製本費	1,452,000	300,000	1,794,000	77,000	0	0	3,323,000
郵便費	0	0	0	0	0	0	0
運搬費	46,000	10,000	1,380,000	378,000	0	0	1,804,000
広告費	120,000	0	244,000	0	0	0	364,000
支払手数料	99,000	10,000	111,000	56,000	28,000	0	294,000
賃借料	0	0	10,000	0	0	0	10,000
会合費	96,000	20,000	0	0	0	0	96,000
公租公課	34,000	0	0	0	0	0	34,000
管) 雑費	0	0	0	0	0	0	0
教育研究用機器備品費	4,447,000	0	0	0	0	0	4,447,000
図書費	100,000	0	0	0	0	0	100,000
合計	12,027,000	360,000	5,766,000	712,000	532,000	1,325,000	20,362,000
前年度予算額	12,594,000	90,000	6,263,000	770,000	577,000	1,440,000	21,644,000
増・減 (▲)	▲ 567,000	270,000	▲ 497,000	▲ 58,000	▲ 45,000	▲ 115,000	▲ 1,282,000

※金額は当初予算の額を入れており年度途中の予算振替は反映していない
 ※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

決算

目的 科目	博物館費	基金事業費	特定課題推進費				合計
			特別展	大学博物館 交流事業	山陰地方 伝統工芸	I C T ミュージアム	
兼務職員人件費	623,913	0	0	0	0	0	623,913
福利費	17,600	0	0	0	0	0	17,600
修繕費	1,144,800	0	0	0	0	0	1,144,800
旅費交通費	954,420	0	642,000	129,640	492,812	0	2,218,872
業務委託費	1,707,460	0	1,755,053	0	18,558	1,323,000	4,804,071
保険料	143,250	0	14,300	0	0	0	157,550
準備品	441,555	0	0	0	0	0	441,555
その他の消耗品費	2,844,686	0	168,437	50,507	0	0	3,063,630
印刷製本費	909,804	0	1,509,489	32,940	0	0	2,452,233
郵便費	2,880	0	0	0	0	0	2,880
運搬費	53,259	0	1,166,008	304,500	475	0	1,524,242
広告費	160,400	0	272,900	0	0	0	433,300
支払手数料	442,021	0	255,996	31,884	0	0	729,901
賃借料	0	0	0	0	0	0	0
会合費	138,443	0	0	0	0	0	138,443
公租公課	30,000	0	0	0	0	0	30,000
管) 雑費	16,200	0	0	0	0	0	16,200
教育研究用機器備品費	1,860,840	0	0	0	0	0	1,860,840
図書費	0	0	0	0	0	0	0
合計	11,491,531	0	5,784,183	549,471	511,845	1,323,000	19,660,030
前年度決算額	16,152,725	0	2,379,385	1,350,701	312,648	1,436,400	21,631,859
増・減(▲)	▲ 4,661,194	0	3,404,798	▲ 801,230	199,197	▲ 113,400	▲ 1,971,829

※予算額を越える執行は年度途中に予算振替の措置を取っている

※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

(2) 2017 年度収入

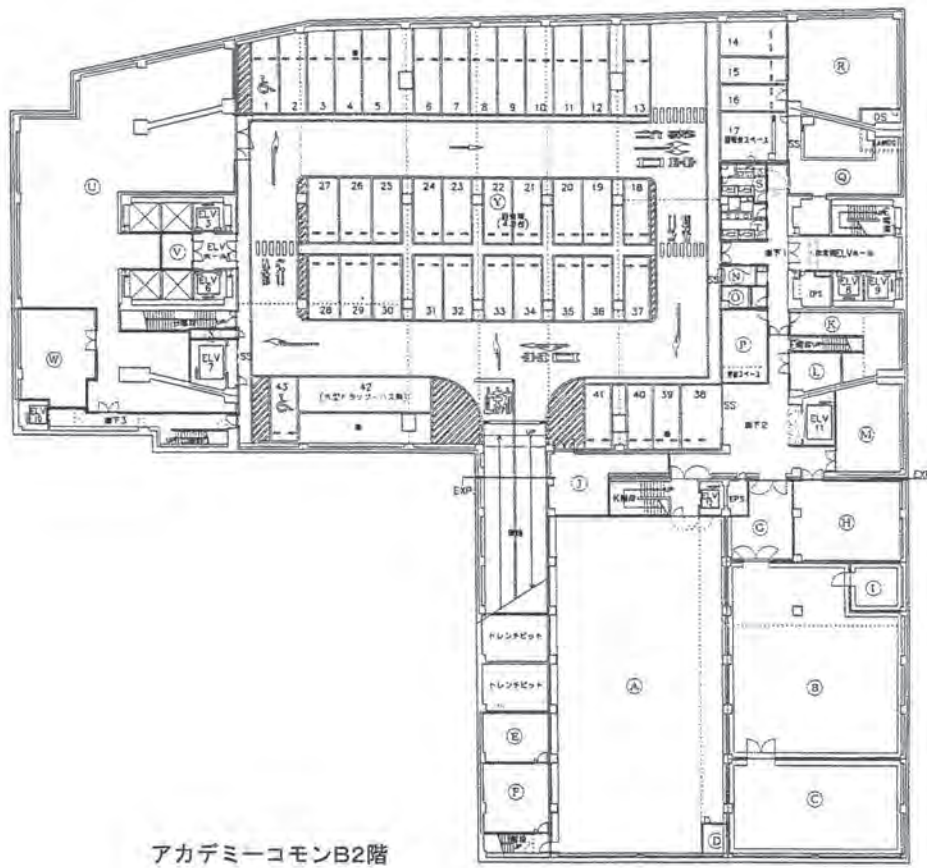
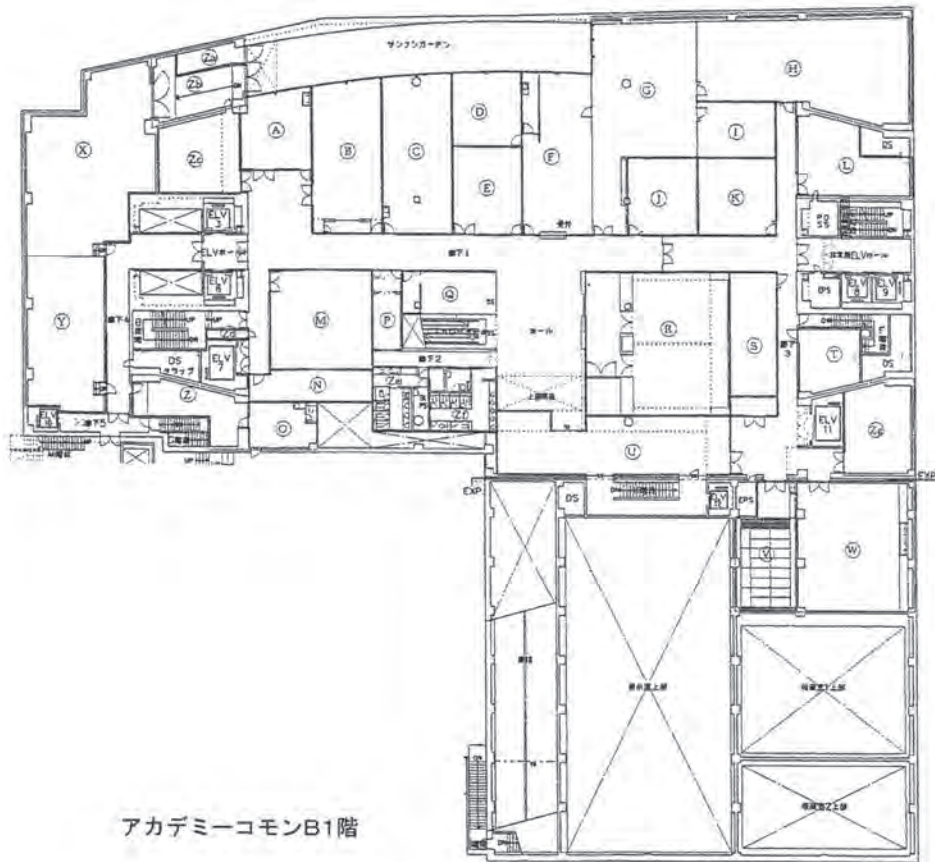
科目：その他の雑収入	予算額	決算額
博物館発行資料売上代	600,000	342,900
公開講座等受講料	0	0
文献複写・資料代	10,000	78,070
撮影・掲載料	200,000	712,260
スライド販売料	0	0
出品謝礼	0	0
特別展入場料	450,000	148,800
特別講演会資料代	0	0
ミュージアムグッズ売上	10,000	565,870
その他	10,000	82,492
合計	1,280,000	1,930,392
前年度予算・決算額	1,280,000	2,262,530
増・減(▲)	0	▲ 332,138

4 施設概要・見取り図

(1) 施設概要

		階	記号	面積	延べ面積
管理部門	館長室	B1	D	42.86 m ²	243.90 m ²
	事務室	B1	F	94.06 m ²	
	会議室	B1	J	45.12 m ²	
	倉庫	B1	L	61.86 m ²	
教育普及部門	図書室	B1	G	145.04 m ²	523.22 m ²
	書庫	B1	H	176.03 m ²	
	閲覧室	B1	I	35.95 m ²	
	博物館教室	B1	B	87.94 m ²	
	体験学習室	B1	A	44.31 m ²	
	ミュージアムショップ	B1	Q	33.95 m ²	
展示室	常設展示室	B2	A	497.19 m ²	785.73 m ²
	大学史展示室	B1	U	115.20 m ²	
	特別展示室	B1	R	173.34 m ²	
調査研究部門	学芸研究室	B1	C	92.03 m ²	332.76 m ²
	作業室 1	B1	V	60.80 m ²	
	作業室 2	B1	W	129.70 m ²	
	展示準備室	B1	K	50.23 m ²	
収蔵部門	前室	B2	G	38.90 m ²	649.11 m ²
	一時保管室	B2	H	77.35 m ²	
	収蔵室 1	B2	B	271.46 m ²	
	収蔵室 2	B2	C	147.37 m ²	
	特別収蔵室	B2	I	23.28 m ²	
	写真保管室 1	B1	S	56.68 m ²	
	写真保管室 2	B1	T	34.07 m ²	
合 計					2,534.72 m ²

(2) 施設見取り図



5 規程

明治大学博物館規程

1991年10月31日制定

1991年規程第2号

(趣旨)

第1条 この規程は、明治大学学則第64条第2項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 博物館は、資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、明治大学（以下「本大学」という。）の学生、教職員、校友及び一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 考古、歴史、刑事及び商品に関する資料の収集、整理、保存、閲覧、貸借、交換及び展示
- (2) 前号に関する調査、研究及び開発
- (3) 資料の目録及び図録、資料集、年報、調査報告書、研究報告書等の作成、頒布及び公開
- (4) 資料に関する解説並びに講習会、研究会、講演会及び映写会等の実施
- (5) 寄託資料の整理、保存、閲覧及び展示
- (6) 本大学における教育・研究の成果を発信する展示会、講演会、シンポジウム等の開催
- (7) 学外の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携・協力
- (8) 生涯教育の振興及び学習支援
- (9) 分館の設置及び運営
- (10) その他必要と認められる事業

(館長)

第4条 博物館に、館長1名を置く。

2 館長は、学長の命を受けて館務を総括し、博物館を代表する。

3 館長は、本大学専任教授の中から、学長の推薦により理事会が任命する。

4 館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の館長の任期は、前任者の残任期間とする。

5 館長は、再任されることができる。

6 館長は、学部、大学院、附属学校又は附属機関の長を兼ねることができない。

(副館長)

第5条 博物館に、副館長1名を置く。

2 副館長は、館長を補佐し、館長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 副館長は、館長が本大学専任教員の中から推薦し、学長の同意を得て、理事会が任命する。

4 副館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。

5 副館長は、再任されることができる。

(事務及び職員)

第6条 博物館に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室で行う。

2 学術・社会連携部博物館事務室に、事務管理職1名並びに学芸員及び職員若干名を置く。

3 学芸員は、第3条に規定する博物館の事業についての専門的事項をつかさどる。

(研究調査員)

第6条の2 博物館に、研究調査員若干名を置くことができる。

2 研究調査員は、本大学の教職員及び学外の有識者から、館長が次条に規定する博物館運営委員会の同意を得て委嘱する。

3 前項のほか、研究調査員に関し必要な事項は、別に定める。(博物館運営委員会)

第7条 博物館の運営に関して、次に掲げる事項について審議するため、博物館に博物館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- (1) 第3条に掲げる事業及びその事業計画に関する事項
- (2) 博物館の管理・運営に関する事項
- (3) 予算及び決算に関する事項
- (4) その他委員会が必要と認めた事項

2 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 館長
- (2) 副館長
- (3) 博物館の運営に関して専門知識を有する専任教職員の中から館長が推薦する者若干名
- (4) 第6条第2項に規定する学芸員
- (5) 学術・社会連携部長

3 前項第3号の委員は、学長が委嘱する。

4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。

7 委員長は、第2項第1号の委員をもって充て、副委員長は、委員の中から委員会の同意を得て、委員長が指名する。

8 委員長は、会務を総理し、委員会の議長となる。

9 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(会議)

第7条の2 委員会は、必要に応じ、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

5 委員会には、必要に応じ、分科会を置くことができる。

6 分科会に関し必要な事項は、委員長が委員会の同意を得て、これを定める。

(規程の改廃)

第8条 この規程を改廃するときは、委員会の議を経なければならない。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、博物館の管理・運営上必要な事項は、委員会の議を経た後、学長の承認を得て、別に定める。

附 則 (1991年規程第2号)

(施行期日)

1 この規程は、1991年（平成3年）10月31日から施行する。

(明治大学刑事博物館規程等の廃止)

2 次に掲げる規程は、廃止する。

- (1) 明治大学刑事博物館規程（昭和56年規程第72号）
- (2) 明治大学商品陳列館規程（昭和56年規程第73号）
- (3) 明治大学考古学博物館規程（昭和56年規程第74号）
（通達第669号）

附則（1996年度規程第16号）

この規程は、1997年（平成9年）4月1日から施行する。
（通達第893号）（注 博物館協議会の設置に伴う改正）

附則（2001年度規程第14号）

この規程は、2002年（平14年）4月1日から施行する。
（通達第1143号）（注 商品陳列館を商品博物館に名称変更することに伴う当該条項の改正）

附則（2003年度規程第8号）

（施行期日）

1 この規程は、2004年（平成16年）4月1日から施行する。

（改正前の規定による各博物館長の任期に関する特例）

2 改正前の明治大学博物館規程第6条第1項により選任された明治大学刑事博物館長、明治大学考古学博物館長及び明治大学商品博物館長の任期は、同規程第8条第1項の規定にかかわらず、2004年（平成16年）3月31日をもって満了するものとする。

（通達第1232号）（注 刑事博物館、考古学博物館及び商品博物館の統合に伴う改正）

附則（2006年度規程第13号）

この規程は、2006年（平成18年）11月16日から施行する。

（通達第1490号）（注 事業に「分館の設置及び運営」を加えること、研究調査員の設置等に伴う改正）

附則（2007年度規程第21号）

この規程は、2007年（平成19年）9月10日から施行する。
（通達第1562号）（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

附則（2008年度規程第4号）

この規程は、2008年（平成20年）5月20日から施行する。
（通達第1689号）（注 研究調査員の対象者に学外の有識者及び若手研究者を加えることに伴う改正）

附則（2009年度規程第7号）

この規程は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

（通達第1807号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

附則（2017年度規程第3号）

（施行期日）

1 この規程は、2017年（平成29年）4月20日から施行する。

（委員の任期の特例）

2 この規程の施行後、改正後の第7条第2項第3号の規定により最初に委嘱される委員の任期は、同条第4項本文の規定にかかわらず、2019年（平成31年）3月31日までとする。

（通達第2462号）（注 博物館の事業の追加、博物館協議会の博物館運営委員会への改組等に伴う改正）

博物館所蔵資料等の撮影及び掲載に関する要綱

1994年9月26日制定

1994年度例規第7号

（趣旨）

第1条 この要綱は、明治大学博物館規程（1991年規程第2号）第9条の規定に基づき、博物館の資料、遺物及び商品（以下「資料等」という。）の撮影及び掲載に関し、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 撮影 資料等の写真又は動画の撮影を行うことをいう。
- (2) 熟覧 営利上の目的又は創造的意思をもって、資料等の形状、紋様若しくは色彩又はこれらの結合にかかわる利用を行うことをいう。

（申請）

第3条 資料等の撮影及び掲載（以下「撮影・掲載」という。）を希望する者（以下「申請者」という。）は、所定の資料撮影・掲載申請書（以下「申請書」という。）を、学術・社会連携部博物館事務室を経て、博物館長（以下「館長」という。）に提出し、許可を受けなければならない。

（許可）

第4条 館長は、撮影・掲載を許可する場合は、資料撮影・掲載許可書を、申請者に交付する。

2 前項の場合においては、必要に応じ、次に掲げる事項を付帯条件とするものとする。

- (1) 撮影をするときは、学芸員等の指示に従うこと。
- (2) 掲載をするときは、明治大学博物館の名称及びその所蔵である旨を明記すること。
- (3) 撮影により生じた著作物は、申請書記載の目的以外には使用しないこと。
- (4) 撮影は、館長が指定し、又は許可した業者が行うこと。
- (5) 前各号のほか、資料等の保全上、館長が特に必要と認めたこと。

3 博物館が所有する資料等の写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ若しくはそれらの複製物又は博物館の刊行物を利用して、目的を達成することができると明らかに認められる場合は、掲載のみを許可する。

（撮影・掲載を許可しない場合）

第5条 次の各号のいずれかに該当する場合は、撮影・掲載を許可しない。

- (1) 撮影により資料等の保存に悪影響が生ずると認められる場合
- (2) 撮影・掲載が好ましくない用途に供するために行われると認められる場合
- (3) 撮影により博物館の事務処理に支障が生ずると認められる場合
- (4) 博物館の所蔵でなく、又はほかに著作権者がある資料について、所有者又は著作権者から、同意を得ていない場合
- (5) 前各号のほか、撮影・掲載を許可することが適当でないとして認められる場合

（料金）

第6条 申請者は、撮影・掲載を許可された場合は、別表第1に定める料金を、速やかに、学術・社会連携部博

物館事務室に納付しなければならない。

- 2 料金は、資料等 1 点当たりの金額とする。
- 3 いったん納付された料金は、原則として、還付しない。
(料金の免除)

第 7 条 前条第 1 項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、料金を全額免除する。

- (1) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関する事業（次号において「教育等事業」という。）の用途に供することを目的とするとき。
 - (2) 教育等事業の普及に特に役立つと認められる用途に供することを目的とするとき。
 - (3) 私立の学校又は研究所の教育若しくは研究の用途に供することを目的とするとき。
 - (4) 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）に規定する博物館等の行う事業の用途に供することを目的とするとき。
 - (5) 専ら学術研究の用途に供することを目的とするとき。
 - (6) 専ら報道の用途に供することを目的とするとき。
 - (7) 前各号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めるとき。
- 2 前項の規定により料金を全額免除された者は、撮影・掲載により生じた著作物を、1 部以上、無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が特に認めるときは、この限りでない。
(準用規定)

第 8 条 資料等の熟覧並びに写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ又はそれらの複製物の利用による掲載及び転載（以下「貸出掲載・転載」という。）については、第 3 条から前条までの規定を準用する。

- 2 前項の場合において、第 6 条第 1 項中「別表第 1 に定める料金を」とあるのは、「熟覧にあつては別表第 2 に定める料金を、貸出掲載・転載にあつては別表第 3 に定める料金を」と読み替えるものとする。
(その他の諸経費)

第 9 条 この要綱に定める料金のほか、撮影・掲載に伴う諸経費は、申請者の負担とする。
(意匠使用)

第 10 条 資料等の意匠使用に関し必要な事項については、館長が、その都度、関係部署の長及び申請者と協議して定めるものとする。

- 2 申請者は、前項の規定による決定事項を遵守しなければならない。
(申請者の責務等)

第 11 条 申請者は、資料等に損傷を与えた場合は、その損害を弁償しなければならない。

- 2 申請者は、撮影・掲載により著作権法にかかわる問題が生じた場合は、すべてその責任を負うものとする。
(許可の取消し等)

第 12 条 館長は、申請者が撮影・掲載の許可条件に従わない場合は、当該の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をすることができる。

- 2 前項の規定により、撮影・掲載の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をされた申請者に対しては、以後の撮影・掲載を許可しないことがある。
(雑則)

第 13 条 この要綱に定めのない事項については、館長が博物館運営委員会に諮り、学長の承認を得て、別に定めることができる。

附 則 (1994 年度例規第 7 号)

この要綱は、1994 年（平成 6 年）9 月 27 日から施行する。

附 則 (1997 年度例規第 7 号)

この要綱は、1997 年（平成 9 年）12 月 16 日から施行し、改正後の第 1 条及び第 13 条の規定は、同年 4 月 1 日から適用する。

(通達第 922 号) (注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正)

附 則 (2004 年度例規第 7 号)

この要綱は、2004 年（平成 16 年）10 月 1 日から施行する。
(通達第 1312 号) (注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正並びにフィルム及び紙焼の貸出掲載料金の改定に伴う改正)

附 則 (2007 年度例規第 9 号)

この要綱は、2007 年（平成 19 年）9 月 10 日から施行する。
(通達第 1563 号) (注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2009 年度例規第 9 号)

この要綱は、2009 年（平成 21 年）6 月 10 日から施行し、改正後の規定は、同年 4 月 22 日から適用する。
(通達第 1808 号) (注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2015 年度例規第 13 号)

この要綱は、2016 年（平成 28 年）4 月 1 日から施行する。
(通達第 2363 号) (注 デジタル化に即した規定に改めると及び撮影・掲載料金等の改定に伴う改正)

附 則 (2017 年度例規第 2 号)

この要綱は、2017 年（平成 29 年）4 月 26 日から施行する。
(通達第 2466 号) (注 博物館協議会が博物館運営委員会に改組されたことに伴う改正)

別表第 1 (第 6 条関係)

撮影・掲載料金 (消費税は含まない。)

写 真・動 画	10,000
---------	--------

(単位：円)

別表第 2 (第 8 条関係)

熟覧料金 (消費税は含まない。)

熟 覧	5,000
-----	-------

(単位：円)

別表第 3 (第 8 条関係)

貸出掲載・転載料金 (消費税は含まない。)

1 写真フィルム原版

サイズ	4 × 5 (インチ)	6 × 8 (cm) 6 × 6 (cm)	35mm
カラー	7,500	6,000	2,000
モノクローム	5,000	2,000	1,000

(単位：円)

2 デジタル写真

カラー・ モノクローム	4,000
----------------	-------

(単位：円)

3 動画及びデジタルコンテンツ

動画及びデジタ ルコンテンツ	20,000
-------------------	--------

(単位：円)

明治大学博物館特別展示室 の利用に関する取扱要綱

2005年10月4日制定
2005年度例規第7号

(趣旨)

第1条 この要綱は、学校法人明治大学固定資産・物品管理規程（昭和46年規程第38号）第1条第3項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）内の特別展示室Ⅰ・Ⅱ（以下「特別展示室」という。）の利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(管理責任者)

第2条 特別展示室の管理責任者は、博物館長とする。

(利用範囲)

第3条 特別展示室は、博物館が実施する特別展等（以下「特別展等」という。）に利用するものとし、特別展等に利用しない期間については、次の各号のいずれかに該当する場合に利用を許可するものとする。

- (1) 学内関係機関による展示活動
- (2) クラス、ゼミナール等による授業にかかわる展示活動
- (3) 本学公認サークルによる展示活動
- (4) 本学の専任教職員が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (5) 本学の校友が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (6) その他特に管理責任者が許可した展示活動

(利用日及び利用時間)

第4条 特別展示室の利用を許可する日は、博物館の開館日とする。

- 2 利用時間は、午前10時から午後4時30分までとする。
 - 3 利用期間は、原則として2週間を限度とする。ただし、前条第1号及び第2号に該当する場合は、この限りでない。
- (利用申込み)

第5条 特別展示室の利用を希望する者は、所定の利用申請書を利用開始日の6週間前までに、管理責任者に提出しなければならない。

(利用許可)

第6条 管理責任者は、前条の規定により申請を受け、申請内容が適当であると認められたときは、利用開始日の3週間前までに利用を許可するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、利用を許可しない。

- (1) 特別展示室の管理・運営に支障が生ずるおそれがある場合
- (2) 付属設備及び備品を破損するおそれがある場合
- (3) その他利用が不相当と認められる場合

2 前項により、管理責任者は、利用を許可したときは、利用許可書を申請者に交付する。

(利用の中止)

第7条 利用者の都合により利用を中止する場合は、利用開始日の2週間前までに管理責任者に申し出て、交付された利用許可書を返却しなければならない。

(利用の取消し等)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、事前に、又は利用期間中において利用の取消し又は利用期間の変更をすることがある。

- (1) 本学の業務遂行上緊急やむを得ない事情が生じた

とき。

- (2) 利用申請書に虚偽の記載があったとき。
- (3) 特別展示室の管理・運営に支障が生じたとき。
- (4) その他特別展示室の利用が不相当と管理責任者が認めたとき。

2 前項により、利用者に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(遵守事項)

第9条 利用者は、特別展示室の利用に際し、管理責任者の指示を遵守しなければならない。

(利用料等)

第10条 利用者は、特別展示室の利用を許可されたときは、所定の方法により、2週間前までに利用料を納入しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、第3条第1号、第2号及び第3号に該当する場合は、特別展示室の利用料を徴収しない。

3 第3条第4号及び第5号に該当する場合の利用料は、1日につき2,700円（消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額）とする。

4 第3条第6号に該当する場合の利用料は、1日につき5,400円（消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額）とする。

5 いったん納入された利用料は、第7条の規定による特別展示室に係る利用の中止又は第8条第1項第1号の規定による利用の取消しの場合を除き、これを返還しない。（権利の譲渡及び転貸の禁止）

第11条 利用者は、特別展示室の利用の権利を譲渡し、又は転貸をしてはならない。

(損害賠償)

第12条 利用者は、特別展示室の利用に際し、その付属設備及び備品を破損し、紛失し、又は汚損したときは、直ちに主管部署に届け出て、その指示を受けなければならない。

2 前項の場合において生じた損害については、利用者が損害に相当する額を弁償しなければならない。ただし、やむを得ない事由があると認められるときは、これを減免することがある。

3 盗難、火災等により利用者が搬入した展示物等に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(主管部署)

第13条 特別展示室の利用に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(要綱の改廃)

第14条 この要綱を改廃するときは、博物館運営委員会の議を経なければならない。

附則 (2005年度例規第8号)

この要綱は、2005年（平成17年）10月5日から施行する。（通達第1397号）

附則 (2007年度例規第9号)

この要綱は、2007年（平成19年）9月10日から施行する。（通達第1563号）（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

附則 (2009年度例規第9号)

この要綱は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

（通達第1808号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

附 則 (2017 年度例規第 2 号)

この要綱は、2017 年 (平成 29 年) 4 月 26 日から施行する。
(通達第 2466 号) (注 博物館協議会が博物館運営委員会に改組されたことに伴う改正)

明治大学大久保忠和考古学振興基金規程

1995 年 5 月 8 日制定

1995 年度規程第 2 号

(設定)

第 1 条 明治大学 (以下「本大学」という。) に、本大学文学部史学地理学科 (考古学専攻) の卒業生である大久保忠和氏の遺志を生かすため遺族から寄せられた指定寄付金 5,000 万円をもって、明治大学大久保忠和考古学振興基金 (以下「基金」という。) を設定する。

(目的)

第 2 条 基金は、考古学及び明治大学博物館 (以下「博物館」という。) にかかわる調査・研究 (以下単に「調査・研究」という。) を奨励することにより、本大学における考古学の振興及び博物館の発展に寄与することを目的とする。

(資産)

第 3 条 基金は、次に掲げる資産をもってこれに充てる。

- (1) 第 1 条の指定寄付金
- (2) 基金の目的に賛同してなされた別記様式記載の指定寄付金
- (3) 第 7 条の規定により基金の元本に繰り入れられた資産

(基金の運用等)

第 4 条 基金の資産は、資金の運用に関する規則 (2009 年度規則第 20 号) に基づいて運用する。

- 2 前項の規定により生じた果実は、基金の事業費に充てるものとする。
- 3 基金は、第 6 条に規定する基金運営委員会の議を経た上で、その一部を取り崩し、事業費に充てることができるものとする。

(事業)

第 5 条 基金による事業は、次のとおりとする。

- (1) 調査・研究に対する助成
- (2) 調査・研究によって得られた成果に対する顕彰
- (3) 前 2 号のほか、第 2 条の目的達成に必要な事業
- 2 前項の事業を行うために必要な事項は、次条に規定する基金運営委員会の議を経て、別に定めることができる。

(基金運営委員会)

第 6 条 基金の運用等及び前条第 1 項の事業に関する事項を審議するため、基金運営委員会 (以下「運営委員会」という。) を置く。

2 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 明治大学博物館長 1 名
- (2) 文学部史学地理学科考古学専攻主任 (次号において「主任」という。) 1 名
- (3) 文学部史学地理学科考古学専攻の専任教員のうちから主任が推薦する者 若干名
- (4) 学術・社会連携部博物館事務長及び社会連携事務長 2 名
- (5) 考古学に関し高度の学識経験を有する者 若干名

3 前項第 3 号及び第 5 号の委員は、委員長が委嘱する。

4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2 年とする。

ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 第 2 項第 3 号及び第 5 号の委員は、再任されることができる。

6 運営委員会に、委員長を置き、第 2 項第 1 号の委員をもって充てる。

7 委員長に事故あるときは、第 2 項第 2 号の委員が、その職務を代行する。

8 委員長は、会務を総理する。

9 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

10 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

11 運営委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

12 運営委員会は、必要に応じ、遺族及び委員以外の者の会議への出席を求め、意見を徴することができる。

(収支残額の処理)

第 7 条 毎年度の決算において基金の収支計算を行い、収支残額が生じた場合は、運営委員会の議を経て、これを基金の元本に繰り入れるものとする。

(事務)

第 8 条 基金の事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(規程の改廃)

第 9 条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、理事会が行う。

(雑則)

第 10 条 この規程の施行に必要な事項は、委員長が、運営委員会及び理事会の同意を得て、これを定める。

附 則 (1995 年度規程第 2 号)

(施行期日)

1 この規程は、1995 年 (平成 7 年) 5 月 9 日から施行する。
(委員の任期の特例)

2 この規程の施行後、最初に任命される第 6 条第 2 項第 3 号及び第 5 号の委員の任期は、同条第 4 項本文の規定にかかわらず、1997 年 (平成 9 年) 3 月 31 日までとする。
(通達第 806 号)

附 則 (2003 年度規程第 35 号)

この規程は、2004 年 (平成 16 年) 4 月 1 日から施行する。
(通達第 1282 号) (注 考古学博物館が明治大学博物館として統合されることによる運営委員会に係る委員構成の変更に伴う改正)

附 則 (2007 年度規程第 40 号)

この規程は、2007 年 (平成 19 年) 11 月 8 日から施行する。

(通達第 1604 号) (注 事務機構改革による基金運営委員会の委員構成及び事務部署名の変更に伴う改正)

附 則 (2009 年度規程第 7 号)

この規程は、2009 年 (平成 21 年) 6 月 10 日から施行し、改正後の規定は、同年 4 月 22 日から適用する。

(通達第 1807 号) (注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2010 年度規程第 6 号)

この規程は、2010 年 (平成 22 年) 5 月 26 日から施行し、改正後の規定は、同年 3 月 30 日から適用する。

(通達第 1911 号) (注 資金の運用に関する規則の制定に伴う改正)

明治大学博物館友の会会則

1988年6月25日制定
1993年4月1日改訂
2006年4月1日改訂
2010年4月1日改訂
2014年4月1日改訂

(名称)

第1条 本会は、明治大学博物館友の会という。
(事務所)

第2条 本会は、事務所を東京都千代田区神田駿河台1-1明治大学(以下「大学」という)に所在する明治大学博物館(以下「博物館」という)内に置く。
(目的)

第3条 本会は、博物館設置の趣旨に賛同し、会員による自主運営を旨とし、会員相互の知識と親睦を深め合い、もって博物館の活動に寄与することを目的とする。
(事業)

第4条 本会は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。
①講演会・研修会・見学会などの開催
②会報、ニュース、図書発行
③会員による自主研究分科会活動
④博物館事業への協力活動
⑤その他目的達成に必要と認められた事業
(入会)

第5条 本会に入会を希望する個人は、入会申込書に記入の上、所定の会費を添えて申し込まなければならない。なお、本会活動の趣旨に賛同後援する個人及び法人を賛助会員とする。
2 会員には会員証を発行する。
(会員の特典)

第6条 会員には、次の特典がある。
①本会および博物館の行事などの情報提供
②大学並びに博物館主催行事への優待参加
③大学図書館の閲覧
(退会)

第7条 会員の資格は、次の場合に消滅する。
①退会の申し出があった場合
②死亡した場合
③会員証記載の有効期限が過ぎた場合
④本会の趣旨に违背した行為があったと認められる場合
(役員)

第8条 本会に、次の役員を置く。
① 会長 1名
② 副会長 2名以内
③ 理事 5名以内
④ 運営委員 若干名
⑤ 監事 2名以内
(役員選出)

第9条 役員は、次のとおり選出するものとする。
①会長および監事は、総会で選出する。
②副会長および理事は、会長が任命する。
③総務・会計・行事・広報を担当する運営委員は理事会において選任し、会長が任命する。また、博物館図書室管理員・展示解説員からそれぞれ互選された運営委員を、会長が任命する。
④上記②、③について、会報で報告する。

⑤監事は、他の役員を兼務することが出来ない。
(役員職務)

第10条 役員は、次の職務を誠実に執行するものとする。
①会長は、本会を代表し、会務を総理する。
②副会長は、会長を補佐し、会長がその職務を遂行出来ないときは、その職務を代行する。
③理事は、本会の総務、会計、広報、行事、企画などの会務を行う。
④運営委員は、理事と共に会務を行う。
⑤監事は、本会の財産会計業務を監査し、総会に報告するとともに、理事会および運営委員会に出席し、その職務に関し、意見を述べる事が出来る。
(役員任期)

第11条 役員任期は、2年とする。ただし、役員再任を妨げない。
2 補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。
補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。
(相談役・顧問)

第12条 本会に、相談役および顧問を置く事が出来る。
2 相談役および顧問は、理事会の推薦により会長が委嘱する。
3 相談役および顧問は、本会への必要な助言を行う。
(総会)

第13条 本会は、年1回総会を開き、事業報告・会計報告を行い、事業計画・予算案を出席会員の過半数により議決する。
なお、理事会の議決、又は会員過半数の要求があった場合は、会長は臨時総会を開催しなければならない。
(理事会)

第14条 理事会は、会長、副会長、理事を以て構成し、会長が招集し、次の事項を審議・決定する。
①総会に付議する重要な事項。
②その他、本会の運営に関する重要な事項。
なお、理事会構成員の過半数の要求があった場合、会長は理事会を開催しなければならない。
(運営委員会)

第15条 運営委員会は、会長、副会長、理事、運営委員を以て構成し、会長が招集し本会の業務運営を行う。
なお、運営委員会構成員の過半数の要求があった場合、会長は運営委員会を開催しなければならない。
(会費)

第16条 本会の年会費は、次のとおりとする。ただし、その年度の下半期入会者は、賛助会員を除き半額とする。なお、納められた年会費は返還しない。
①一般会員 3,000円
②家族会員 1,500円(同居の家族)
③学生 1,500円
④賛助会員(1口) 10,000円
(経費)

第17条 本会の経費は、会費・事業収益・寄附金・その他をもって充てる。
(事業年度)

第18条 本会の事業年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。
(会則の変更)

第19条 本会の会則は、総会の議決なくして変更することはできない。

(付則)

1. 本会則は、改訂年4月1日から発効する。
2. 本会の管理運営上必要と認められる細則は、理事会において審議し、別に定める。

6 2017年度教育・研究に関する計画書

教育・研究に関する長期・中期計画書 博物館

1 理念・目的

グローバル化や情報化の進展にともなう多様な社会情勢に対応できる高度な適応力をもった人材の育成や、学びを基軸とした新たなコミュニティの形成など、大学に対する社会の要請が近年ますます高まるなかで、教育・研究の成果を広く還元し、社会の発展に寄与することは、大学の使命の重要な一面である。博物館は、大学全体の社会的発信力を高め、本学の発展に貢献するための重要なインフラとして本学の特色ある教育・研究の一翼を担う。そして、博物館独自の展示や生涯学習の多様な機会の提供などをおして社会に貢献する拠点的な役割を果たす。

博物館は、本来博物館がもつ共通の機能である資史料の収集・保管、調査・研究、教育・普及の観点、そして上記した大学博物館としての位置づけにもとづき以下の3つのミッションを掲げており、これらを長期・中期計画策定の方針としている。

ミッション1：収蔵資料の保管、拡充および利活用の促進

国内有数規模の各種収蔵資料を質・量ともに充実させ、調査・研究を進めるとともに、保存・管理及び学術情報公開の態勢を整備し、国際的な視野から教育・研究機会における利活用を促進する。

ミッション2：学内共同利用機関としての機能拡充

本学の戦略的な教育・研究推進計画に寄与するとともに、全学的なネットワークのもとで博物館として特色ある展示及び教育・研究事業を実現する。

ミッション3：社会連携の推進と情報発信

本学の教育・研究の成果を社会に還元するため、生涯学習の多様な機会の提供、及び地域の関係機関との交流を推進する。また、情報通信技術の活用によって、本学の教育・研究成果をより広範な人々に対して発信する役割の一翼を担う。

2 教育研究組織

(1) 共同研究・成果発信の体制

刑事、商品、考古の3部門からなる博物館の専門分野に関連する研究・知財戦略機構付属研究施設、研究クラスター、特定課題研究ユニットなどの活動との連携、また、学部・大学院との連携などにより、教員や研究グループとの共同研究・成果発信の体制を継続的に構築し強化する。

3 教職員・教職員組織

(1) 博物館協議会の発展的な改組

博物館における合議体である「博物館協議会」は、旧3館時代における各館の運営委員会を統合・再編したものであり、学内共同利用機関としての機能拡充の観点からは、必ずしも十分な態勢とはいえない。そこで、現行

の博物館協議会を各学部から選出された委員によって構成される博物館運営委員会へと改組する。運営委員会は、博物館活動の専門的な領域に対応しうる組織と位置づけられ、全学的な意思反映のネットワークの基点として機能し、館の運営方針及びその執行に責任を負う。

(2) 学芸員の位置づけ

本学の博物館が他大学に対して優位性を保持しているとすれば、それは、教員の兼任ではなく専任の学芸員が配置されていることにより、恒常的に館務を遂行することが可能である点と、高度に専門的な職務を遂行する要員として機能している点が理由である。この博物館のコア・コンピタンスを維持し保証していくためには、学芸員を専門職として制度的に位置付ける必要がある。

(3) 学内外の教員・研究者による収蔵資料の利用促進

収蔵資料を研究対象とし、長期的な研究活動を希望する学内外の教員・研究者が、資料を継続的に利用できる組織的・施設的な体制を整備する。

4 教育内容・方法・成果

(1) 博物館主催特別展の開催

博物館や提携する学内研究機関の調査・研究の成果を社会発信するために企画する特別展は、博物館の中核事業として毎年の重点項目の最上位に位置づけられる。特別展の担当学芸員は、年間エフォートの大半を傾注しており、年間7万人を前後する来館者数の確保に大きく貢献している。会期に並行して、特別展のテーマに応じた公開講座など関連事業を展開する。

(2) 展覧会の共同開催

学内外の機関などからの利用要請にもとづき様々な展覧会を受け入れ、開催準備に対する助言・協力等をおこなっている。特別展示室の利用を一層周知し、学内団体による利用を活性化させ、共同利用機能の拡充を目指す。

(3) 教育普及事業

ア 在学生対象事業

建学の精神の具現化や国際的評価の視点を積極的に盛り込み、展示見学を通して広い教養に裏打ちされた心豊かな人材育成に資する教育プログラムを策定する。学芸員資格課程における館務実習生の受け入れ、学部間共通総合講座や学部・大学院との連携による公開特別講義、その他収蔵資料を活用した特色ある講義を継続するとともに、ボランティアやサークル活動等を通じた博物館事業への参加機会を構想する。

イ 生涯学習事業

一般社会人を主な対象とし、学芸員の専門的知識・技能を活用した生涯学習プログラム、研究発表会等を実施する。また、外部機関による講演会等へも積極的に出講する。

5 博物館情報のデジタル発信および国際化

(1) ICTミュージアムの構築

博物館の収蔵資料は国内でも有数の学術資源であり、その活用は国際的な広がり期待される。これら多様な資料の全体像と詳細な学術情報を国内外に発信するため、バーチャル常設展示室、収蔵資料データベース、インタラクティブな資料閲覧コンテンツ、特別展など展覧会の動画コンテンツほかを制作・蓄積し、多言語に対応したコンテンツとして提供するウェブサイトを構築する。

(2) 国際学術交流の推進

国際学術交流の近年の実績としては、旧石器時代研究に関わる韓国の石壯里博物館での重要文化財の展示会、明治期の古墳研究資料として著名なガウランド寄託資料に関わる大英博物館での調査などを挙げることができる。東アジア諸国や西欧諸国の博物館との国際交流の機会を増やし、学術交流を推進する。

(3) 国外からの研究者受入体制の整備

国際学術交流を推進するには、資料情報の発信とともに、国外の研究者による収蔵資料の利用受入体制を整備することも必要である。海外研究者の受入を視野にレファレンス体制を整備する。

6 教育研究等環境

(1) 研究環境

ア 博物館事業に関連する調査・研究

特別展の準備をはじめ博物館におけるあらゆる専門的業務の遂行にあたっては、その学術的裏付けを得るための調査・研究機会の確保が重要である。これらの調査・研究の実施にあたっては、科研費をはじめとする外部資金を積極的に獲得し、活用する。

イ 博物館資料に関連する研究の推進

譜代大名内藤家文書、伝統的工芸品産業、時田ことわざコレクション、茨城県内古墳出土資料、前場幸治瓦コレクションに関する調査・研究を計画し、必要に応じて専任教員及び学外の有識者に研究調査員を委嘱し、共同研究を行う。2016年度～2018年度には、山陰地方民藝陶器のマーケティング研究を重点項目として推進する。

ウ 大学院生・学生への学習機会の提供

博物館の共同利用機能の拡充にあたっては、院生・学部生への学習機会の提供も主眼となる。上記した各種の調査研究・資料整理作業は、教員と学芸員の主導のもとに、院生・学生の協力を得ながら推進する。

(2) 施設・設備等

ア 収蔵スペースの増床

アカデミーコモン地下1・2階にある収蔵室の収容能力はすでに限界に達している。今後の体系的な資料収集と整備に資するべく、200 m²程度の収蔵施設の増設が必要であり、要望していきたい。また、今後の受入資料の専門領域拡大によっては、対処する専門学芸員の増員についても検討する。

(3) 博物館資料及び図書・電子媒体等

ア 博物館資料の構築

刑事・考古・商品の3部門の専門領域について、特色ある博物館資料の充実を計画的に実行する。刑事部門では刑罰史関連資料、古文書、絵図・古地図類、考古部門では黒曜石研究、東アジア青銅器、化石人類の関連資料、商品部門では伝統的工芸品産業の関連資料を収集の基本方針とする。また、学内外からの資料寄贈の申し出に対応する。

イ 博物館資料の保存処置・レファレンス体制

教育・研究への博物館資料の利用促進にあたり、レファレンス体制の整備は大きな課題である。各種資料には必要な保管処置と修復を行う。収蔵品目録として未公開の資料については、上記したICTミュージアムでの公開を含め、順次検索の態勢を整備する。

ウ 個性的な蔵書構築

博物館3部門に関連する専門図書について継続的に充

実をはかる。特に、全国各地の発掘調査機関から寄贈される遺跡発掘調査報告書、全国各地の博物館・美術館が刊行した展覧会図録、収蔵資料関連の参考文献の収蔵は、博物館図書に特色を与えている。約8万冊の蔵書は、すでに図書館のOPACに書誌登録されているが、閲覧環境の整備や蔵書点検を図書館と共同して継続的に行う。

7 社会連携・社会貢献

文科省の補助事業や大学基準協会による大学評価においても注目される社会連携事業について、社会連携機構、リバティアカデミー、図書館と連携して充実化を図る。

(1) 教育研究成果の社会還元及び情報発信の強化

ア 年間約7万名という来館者は、大学博物館ではトップクラスである。特別展示室を全学的なネットワークのもとで活用し、本学における教育研究の成果を広くアピールする。

イ 研究資源としてばかりではなく、大学教育への興味関心の喚起という観点からは、教養・娯楽を含めて社会における幅広い収蔵資料利用を促進する。

ウ 新聞・テレビなど報道機関に対し、タイムリーな情報提供をおこないパブリシティ効果を高める。全学的な教育研究成果の社会発信の一翼を担う仕組みを博物館として策定する。

(2) 地域連携・大学間連携事業の推進

ア 本学との間で研究推進・社会連携協定を締結している長野県小県郡長和町はじめ、博物館の活動と関連する自治体や教育機関、学会等と連携した事業を展開する。

イ 考古学・文化人類学の分野で高い評価を得ている南山大学人類学博物館との交流事業を実施する（交流協定に基づく第3期事業：2016年度～2018年度）。

ウ これまでに地域連携の実績がある宮崎県延岡市、福島県いわき市、東京都千代田区等との間で地域連携を推進する。

エ 学外の教育・研究機関が主催する市民講座などへも積極的に出講し、本学と博物館の研究成果を社会に還元し、地域連携の推進に努める。

(3) 博物館友の会活動への支援

博物館友の会は、会員による自律的な運営体制をとっており、博物館は、友の会会員のボランティアによる展覧会や図書室の運営、資料整理等について多大な支援を受けている。友の会は、博物館の対外的な評価の形成に大きく貢献しているため、大学と一般社会との接点として機能している友の会活動を支援することは、博物館にとって重要な意味をもっており、今後も推進する。

8 管理運営・財務

(1) 事務組織

博物館運営の基幹人材である学芸員については、関係学術分野における専門的知識と技能を要する専門職として制度的に位置付けられるよう要請してゆく。現在、博物館事務室に一般事務職員の配置がないことにより学芸員による専門的職務遂行が制約されている実情がある。博物館の発展に向けた適切な事務組織を構築するために専任事務職員の配置を関係部署に要求する。

(2) 適切な財産管理手段の構築

収蔵資料の収集プロセスは第2次大戦前に遡り、その間には度重なる組織改編や所在地移転があり、資産登録

に関する勘定科目についても一定ではなかったため管理上の混乱が見られる。引き続き収蔵資料の所在確認を進め、資産登録手順や棚卸しなどの管理手段について関係各部署と協議の上、適切な財産管理体制を構築する。

9 内部質保証

(1) 自己点検・評価

博物館自己点検・評価委員会による点検・評価作業を中心に、教員・事務管理職によって構成される博物館協議会における意見聴取をはじめ、教職員や学外の有識者等に対し幅広く評価を求める。また、各種アンケート調査や博物館友の会との対話をとおして、積極的に利用者の意見を聴取し、博物館運営と事業の改善に資する。

(2) 情報公開

ア 博物館資料等に関する学術情報の公開

『博物館研究報告』は、投稿規程と査読制度を整備し年次刊行している。また、各種資料整理の成果を ICT ミュージアムのコンテンツ、図録、目録、報告書等として公開あるいは刊行する。

イ 事業報告と広報活動

事業内容、研究実績、収蔵資料利用数・入館者動向等の各種統計、予算・決算、各種委員会、規程類、施設概要等については、『博物館年報』の年次刊行により公開している。広報誌「ミュージアム・アイズ」(年2回発行)やミュージアムショップ並びに他の博物館・学会等とのネットワークを活用し、事業内容と活動の広報に努める。またホームページの更新とタイムリーな情報提供に努める。

7 2017 年度単年度計画重点項目一覧

重点項目 (計画内容・理由等)	詳細内容 (成果・効果・達成目標・検証方法等)
博物館主催特別展「鳥取県の工芸文化—地域における「伝統工芸」の形成過程—(仮)」の開催	毎年度開催している本学および博物館コレクションの研究成果を社会還元する特別展は、博物館の社会連携事業の最重点項目であるが、本展は、本学の創立者出身地自治体との連携事業の充実に資することができる。展示は、藩政時代の産業振興を源流とする当地の伝統的工芸品産業を通して、鳥取県地方の地域文化の特質を検証する。約2ヶ月間の会期中、5,000人程度の入場者を目標とする。また関連事業である展覧会ガイドツアーや公開講座(5講義)では延べ500人程度の参加者を目標とする。
明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業	交流事業(2010年度より実施)の3期事業(2016～2018年度)として行う。2年目は、博物館の展示物を活用したVTS(Visual Thinking Strategy)理論に基づく新たな教育プログラムの実践例(1年目に実施)を踏まえ、展示や教育法など歴史系博物館を中心とした博物館学に関するシンポジウムを開催する。あわせて交換展示を行い、学生教育に資するとともに本学の研究成果・研究資源を名古屋方面へアピールする。実施に際しては学芸員養成課程および博物館学会と連携する。
山陰地方民藝陶器のマーケティング研究	商学部教員等に研究調査員を委嘱して組織している商品部門研究推進部会の活性化を図る。観光振興、地域振興という観点を含めた伝統的工芸品のマーケティング研究の対象として、近年、再び社会的な関心が高まりつつある「民藝運動」に関わる山陰地方の陶磁器産業を取り上げる。2016年度から3ヶ年計画の2年目は鳥根地域の産地を対象とする。商品開発・販売、観光振興の関係者を交えて検証した成果を公開特別講義(商学部生・他学部生・一般社会人への公開)及び『博物館研究報告』で公開する。
ICT ミュージアムの構築	インターネットを利用した国内外への本学の教育・研究資源の公開事業の一環として位置づけられる。膨大な博物館コレクションは、これまで展示、図録等の媒体でその内容が公開されているが、全体のごく一部である。ICT ミュージアムでは、常設展バーチャルツアー、データベース、教育コンテンツ等のデジタル媒体を駆使して、多様なコレクションの全体像と詳細な学術情報を国内外に発信する。2015年度からの3ヶ年計画の3年次となる2017年度は、常設展バーチャルツアーの構築を継続して行う。

8 明治大学博物館のあゆみ

1881 (明治 14) 年 1 月 明治法律学校開校

×

×

1929 (昭和 4) 年 4 月 刑事博物館を記念館5階に開設
 1931 (昭和 6) 年 大学創立50周年記念刑事展覧会開催
 1933 (昭和 8) 年 刑事博物館初代館長に大谷美隆法学部教授が就任
 9 月 『刑事博物図録』を刊行

(第2次世界大戦)

1949 (昭和 24) 年		新制大学へ移行
1951 (昭和 26) 年	4 月	刑事博物館の運営を再開 館長に島田正郎法学部教授 (後、明治大学総長) が就任 林久吉商学部教授 (初代商品陳列館長) らの商品研究所が資料室を開設
1952 (昭和 27) 年		考古学陳列館が 2 号館 4 階に開館 初代館長に後藤守一文学部教授が就任
1954 (昭和 29) 年	4 月	刑事博物館が 2 号館 4 階へ移転 6 月に一般公開開始
1955 (昭和 30) 年	2 月	刑事博物館が博物館相当施設に指定される (2004 年 3 月廃館にともない指定解除)
1957 (昭和 32) 年	5 月	商品陳列館が 2 号館 4 階に開館
		(この頃には 3 館とも一般公開 3 館共通の入館案内を作成)
1960 (昭和 35) 年		考古学陳列館長に杉原荘介文学部教授が就任
1963 (昭和 38) 年		譜代大名内藤家文書を和泉校舎図書館に収蔵、後、刑事博物館に移管
1966 (昭和 41) 年	4 月	小川町校舎へ移転 (考古 2 階・刑事 3 階・商品 4 階) 商品陳列館長に三谷茂商学部教授が就任
		(大 学 紛 争)
1976 (昭和 51) 年	4 月	刑事博物館長に鍋田一法学部教授が就任
1977 (昭和 52) 年	4 月	商品陳列館が一般公開再開 同館「講演と映画の会」開催 (年 1 回～2003)
1981 (昭和 56) 年		1 号館 (刑事 1 階・考古 3 階)、11 号館 (商品 4 階) へ仮移転 商品陳列館長に刀根武晴商学部教授が就任
1983 (昭和 58) 年	9 月	考古学陳列館長に大塚初重文学部教授が就任
1985 (昭和 60) 年	11 月	3 館大学会館へ移転 (刑事・商品 3 階・考古 4 階) 「考古学博物館」に名称変更
1987 (昭和 62) 年	5 月	公開講座「考古学ゼミナール」開講
1988 (昭和 63) 年	6 月	考古学博物館友の会結成
1991 (平成 3) 年	4 月	3 博物館の事務所管部署一元化のため博物館事務室設置
	10 月	「明治大学博物館規程」制定
1995 (平成 7) 年	4 月	考古学博物館長に戸沢充則文学部教授が就任 刑事博物館長に川端博法学部教授が就任
	10 月	博物館入門講座を開講
1997 (平成 9) 年	4 月	刑事博物館にて「ヨーロッパ拷問展」開催 (～12 月)
2001 (平成 13) 年	4 月	刑事博物館が文部科学省「親しむ博物館づくり事業」受託
2002 (平成 14) 年	4 月	商品博物館に名称変更 商品博物館長に澤内隆志商学部教授が就任
2004 (平成 16) 年	4 月	「明治大学博物館」アカデミーコモン地階に開館 博物館長に小疇尚文学部教授が就任 「明治大学博物館規程」改正施行 (刑事博物館・商品博物館・考古学博物館を統合) 国外から資料を借用しての特別展「韓国スヤンゲ遺跡と日本の旧石器時代」開催 (～5 月)
	10 月	文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託 (～2005 年 3 月)
2006 (平成 18) 年	4 月	博物館長に杉原重夫文学部教授が就任
	8 月	文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託 (～2007 年 3 月)
	10 月	特別展「掘り出された子どもの歴史」にて国指定重要文化財を借用・展示
	11 月	明治大学黒耀石研究センターが博物館分館となる (～2010 年 3 月)
2007 (平成 19) 年	10 月	事務所管部署が学術・社会連携部社会連携事務室となる
2009 (平成 21) 年	4 月	事務所管部署が学術・社会連携部博物館事務室となる 巡回特別展「海のシルクロードの出発点“福建”」展開催 中国国家一級文物を展示 (～5 月)
2010 (平成 22) 年	3 月	南山大学人類学博物館と交流協定締結
2012 (平成 24) 年	4 月	博物館長に風間信隆商学部教授が就任
2013 (平成 25) 年	2 月	ギロチンとニュルンベルクの鉄の処女が名古屋へ 南山大学人類学博物館・名古屋市博物館との合同特別展「驚きの博物館コレクション展」開催 (～3 月)
	3 月	南山大学人類学博物館との合同シンポジウム成果刊行物『博物館資料の再生—自明性への問いとコレクションの文化資源化—』を岩田書院から刊行
	7 月	岩宿遺跡出土石器 (重文・29 点) 他記録類をはじめて海外へ出展 (～9 月) 韓国公州市石壮里博物館・群馬県岩宿博物館と共催で「日本旧石器の始まり“岩宿”」展を開催 (～2014 年 2 月)
2014 (平成 26) 年	5 月	開館 10 年を記念して、これまでの来歴を検証し将来を展望した「明大博物館クロニクル」を開催 (～6 月)
	7 月	大船渡市と明治大学が結んだ震災復興支援の協定にもとづき、明治大学博物館のコレクションを紹介した「明治大学コレクションの世界：氷河期から昭和まで」を大船渡市立博物館で開催 (～8 月)
2016 (平成 28) 年	3 月	常設展示を改修、新装オープン 東京都教育庁から博物館相当施設に指定される
	4 月	博物館長に村上一法学部教授が就任
2017 (平成 29) 年	4 月	明治大学博物館規程の一部改正が承認され、博物館協議会を博物館運営委員会に改組
2018 (平成 30) 年	3 月	2017 年度入館・利用者数 10 万人超え達成
	4 月	博物館長に井上崇通商学部教授が就任

明治大学博物館年報 2017年度

2018年6月13日 発行

編集・
発行人 明治大学学術・社会連携部博物館事務室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

電 話 03-3296-4448

F A X 03-3296-4365

U R L <http://www.meiji.ac.jp/museum/>

印 刷 株式会社 日本制作センター

